

FS 56

STIHL



2 - 35

取扱説明書



目次

1	はじめに.....	2
2	使用上の注意および作業方法.....	3
3	組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス.....	11
4	バイク ハンドルの取り付け.....	12
5	ループ ハンドルの取り付け.....	13
6	吊り下げ用リングの取り付け.....	15
7	デフレクターの取付け.....	16
8	カッティング アタッチメントの取付け.....	17
9	燃料.....	20
10	給油.....	21
11	ハーネスの取付け.....	22
12	ユニットのバランス.....	23
13	エンジンの始動と停止.....	24
14	機械の運搬.....	26
15	作業中の注意事項.....	27
16	エアフィルター の掃除.....	28
17	キャブレターの調整.....	28
18	スパーク プラグ.....	28
19	エンジンの動作.....	29
20	機械の保管.....	29
21	金属製カッティング ブレードの目立て.....	30
22	カッティング ヘッドの保守.....	30
23	整備表.....	32
24	磨耗の低減と損傷の回避.....	32
25	主要構成部品.....	33
26	技術仕様.....	34
27	整備と修理.....	35
28	廃棄.....	35

お客様各位

この度は STIHL 社の製品をお買上げいただきまして誠に有難うございます。

この製品は、最新の製造技術と入念な品質保証処置を施して製造されました。私共は、お客様がこの製品を支障なく使用され、その性能に満足していただくために最善の努力を尽くす所存であります。

本製品に関してご不明な点がありましたら、お買上げの販売店または当社カスタマーサービスにお問い合わせください。

敬具

Nik Stihl


Dr. Nikolas Stihl

1 はじめに

1.1 シンボルマークについて

機械に表示されているシンボルマークの意味は、本取扱説明書に説明されています。

対象の機種によっては、以下のシンボルマークが機械に表示されている場合があります。

 燃料タンク、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料



デコンプレッションバルブの操作



手動燃料ポンプ



手動燃料ポンプの操作



グリースチューブ



インテークエア： 夏季作業



インテークエア： 冬季作業



ハンドルヒーター

1.2 段落の前に付いたシンボルや数字



警告

人に及ぼす事故やケガ、更に重大な物的損傷に対する警告。

注記

本機本体あるいは構成部位の損傷に対する警告。

1.3 技術改良

当社の信条として、常に自社製品の改良を心がけております。この理由から、製品の設計、技術、外観が定期的に改良される場合があります。

このため、変更、修正、改良の種類によっては、本取扱説明書に記載されていない場合があります。

2 使用上の注意および作業方法



本機は切断速度や回転速度が速いため、特別な安全措置を講じて負傷する危険を低減してください。



初めて使用するときは取扱説明書をよく読んで理解してください。取扱説明書は、必要ときに参照できるような安全な場所に保管してください。取扱説明書の記載事項を遵守しないと、重傷や致命傷さえも負うことがあります。

現地で適用される安全規制(業界団体、社会保険機関、労働安全局等が定める規定)にすべて従ってください。

本機を初めて使用する場合: STIHL サービス店または他の経験豊富なユーザーに機械の操作法を教わるか、専門的な研修に参加してください。

未成年者には絶対に本機を使用させないでください。ただし、監督下で作業を進める 16 歳以上の訓練生は例外です。

子ども、動物、見物人との間に安全な距離を確保してください。

機械を使用しないときは、他人に危険が及ばないように配慮して下に置いてください。機械が無断で使用されないよう対策を講じてください。

第三者やその所有物の事故やリスクを防止することは、使用者の責任です。

パワーツールを貸与または譲渡する場合は、取扱説明書と一緒に手渡してください。本機の使用が取扱説明書の記載事項に精通していることを確認してください。

騒音を発する機械の使用が、国、地域、現地の規則によって一日の特定の時間帯に制限されている場合があります。

機械の操作者は、十分に休息をとり、身体的・精神的に健康でなければなりません。

激しい労働に耐えられない体調の方は、かかりつけ医に相談してから機械を使用してください。

ペースメーカー着用者向けの注意点: 本機のイグニッションシステムは微弱な電磁界を発生します。その電磁界がペースメーカーに干渉する場合があります。健康上のリスクを低減するために、STIHL 社ではペースメーカー着用者にかかりつけ医やペースメーカー製造業者に相談されることをお勧めしています。

動作を鈍らせるアルコール、薬物、薬剤を服用した状態では、本機を使用しないでください。

装着したカッティングアタッチメントに応じて、パワーツールは芝、雑草、灌木、藪、茂み、径の小さい木々等の切断用にのみ使用してください。

本機を他の目的に使用しないでください - 事故が起きる危険があります!

STIHL 社がこのパワーツールに使用することを明示的に承認したか、技術的に同等のカッティングアタッチメントとアクセサリだけを装着してください。ご不明な点は、サービス店にお問い合わせください。事故や本機の損傷を防ぐために、高品質の部品とアクセサリのみを使用してください。

STIHL 社では、STIHL 純正ツールとアクセサリの使用をお勧めしています。そうした純正品は製品に適合し、お客様の性能要件を満たすように特別に設計されています。

いかなる方法であれ、絶対に本パワーツールを改造しないでください。負傷する危険が高まるおそれがあります。STIHL 社は、承認されていないアタッチメントを使用した際のケガや物的損害に対する一切の法的責任を負いません。

本機に取り付けたガードは、作業者を回転するカッティングアタッチメントによって飛散する物体(石、ガラス、ワイヤー等)の一部からしか保護することはできません。物体が飛散し、作業者に当たるおそれがあります。

本パワーツールの清掃に高圧洗浄機を使用しないでください。強力な水の噴流が、本機の部品を損傷するおそれがあります。

2.1 衣服と装備

適切な防護服と装備を身に付けてください。



丈夫な素材で、身体の動きを一切制限しない衣服を着用してください。ゆったりとした上着ではなく、つなぎ服等の身体にぴったりフィットする衣服を着用してください。

木々、茂み、機械の可動部に絡まるおそれがある衣服は着用しないでください。スカーフ、ネクタイ、装身具は身に付けないでください。長髪は結び、肩よりも高い位置でまとめてください。



靴底が滑らない、爪先に鋼板の入った安全靴を履いてください。

草刈ヘッドを使用する場合に限り、靴底が滑らない頑強な作りの靴も着用できます。



警告



目を負傷する危険を低減するために、European Standard(欧州基準) EN 166 に準拠した、確実にフィットする保護メガネを着用してください。保護メガネが適切にフィットしていることを確認してください。

フェイスシールドを着用し、適切にフィットしているか確認してください。フェイスシールドだけでは眼を十分に保護できません。

「個人」用のイヤープロテクター(例えばイヤーマフ)を着用してください。

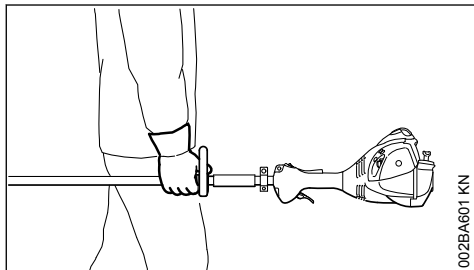
間伐作業や高い茂みで作業を行うときや、落下物で頭部を負傷する危険があるときは、安全ヘルメットを着用してください。



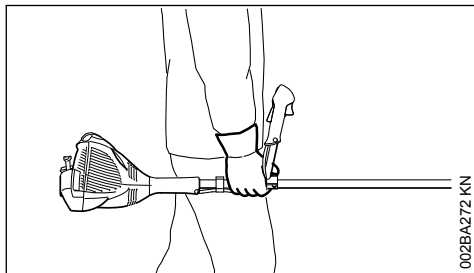
耐性素材(革等)でできた丈夫な保護手袋を着用してください。

STIHL 社では、さまざまな防護服や防護装備を取り揃えております。

2.2 機械の運搬



002BA601 KN



002BA272 KN

必ずエンジンを切ってください。

機械のバランスが保たれるよう、ハーネスで吊り下げるか、シャフトを持って機械を運搬します。

切傷を負う危険を低減するために、短距離を運搬する場合でも、カッティングアタッチメントに運

搬用ガードを取り付けてください。「運搬用ガードの取り付け」も参照してください。



機械の高温の部品やギヤボックスには触れないでください。火傷をするおそれがあります！

車両輸送：転倒、損傷、燃料漏れを防ぐために機械を適切に固定してください。

2.3 給油



ガソリンは可燃性が極めて高い液体です - 火気を近付けないでください。燃料をこぼさないでください。喫煙しないでください。

必ずエンジンを切ってから給油してください。

エンジンが高温のときは給油しないでください - **燃料がこぼれ、火災が生じる危険があります。**

タンク内の高圧が徐々に抜け、燃料が噴き出さなくなるよう、燃料キャップは慎重に開けてください。

必ず換気の良い場所で給油してください。燃料がこぼれたときは、直ちに機械を清掃してください - 燃料が衣服にはね飛ばないように注意してください。燃料が衣服に付着したときは、速やかに着替えてください。



給油後は、燃料タンクキャップをしつかりと閉めます。

確実に閉めると、燃料タンクキャップがエンジンの振動によって緩むか外れ、燃料が漏れ出す危険が低減されます。

漏れの有無を確認します。燃料が漏れている場合はエンジンを始動しないでください - **重度の火傷または致命的な火傷を負うおそれがあります！**

2.4 作業開始前

パワーツールが適切に組み立てられ、正常な状態になっているか点検します。本取扱説明書の関連する章を参照してください。

- 燃料システム、特に燃料タンクキャップ、ホースコネクター、手動燃料ポンプ(手動燃料ポンプ付きの機械のみ)等の目視が可能な部品が漏れていないか点検します。漏れや損傷が生じている場合は、エンジンを始動しないでください。火災が起きる危険があります！サービス店で機械を修理してから再使用してください。
- 組み合わせが承認されているカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネスのみを使用してください。すべての部品は、適正かつ確実に組み立てられている必要があります。

- 停止スイッチ/スライドコントロールは容易に操作できなければなりません。
- チョークレバー、スロットルトリガー、スロットルトリガーロックアウトがスムーズに作動するか点検します。スロットルトリガーは自動的にアイドリング位置に戻らなければなりません。スロットルトリガーロックアウトとスロットルトリガーを握ると、チョークレバーが **I** と **II** の位置から運転位置 **I** に戻らなければなりません。
- スパークプラグターミナルがしっかりと差し込まれているか点検します。緩んでいる場合は火花が発生し、可燃性のガスに引火し、**火災が発生するおそれがあります！**
- カuttingアタッチメントまたは交換用アタッチメント：適正に取り付けられ、しっかりと固定されており、完璧な状態にあるか確認します。
- 安全装置 (カuttingアタッチメント用デフレクター、ライダープレート等) に損傷や摩耗がないか点検します。損傷した部品は、必ず交換してください。損傷したデフレクターや摩耗したライダープレート (文字や矢印が確認不能) を取り付けたまま作業しないでください。
- 操作部や安全装置は絶対に改造しないでください。
- ハンドルは乾いた清潔な状態 (オイルや汚れが付着していない状態) に保ちます。この点は、機械を安全に操作するために重要です。
- ハーネスとハンドルを身長や手の長さに合うよう調整します。「ハーネスの取り付け」-「機械のバランスのとれ方」の項を参照してください。

負傷する危険を低減するために、損傷したパワーツールや適切に組み立てられていないパワーツールは使用しないでください！

ハーネス使用時の緊急事態に備えるために：本機を素早く地面に降ろす練習をします。この練習中は、本機を地面に投げ下ろして損傷させないよう注意してください。

2.5 エンジンの始動

給油場所から 3 m 以上離れた場所でエンジンを始動します。屋外に限ります。

機械を屋外の安定した地面に置きます。バランスと安定した足場を確保してください。機械をしっかりと保持します。エンジン始動時に作動するおそれがあるため、カuttingアタッチメントを地面や他のあらゆる障害物に接触させないでください。

本機は一人で操作してください。機械から半径 15 m 以内には第三者を立ち入らせないでください。始動時も同様です！飛散物で**負傷する危険があります！**



カuttingアタッチメントに触れないでください。**負傷する危険があります！**



エンジンの落としがけをしないでください。取扱説明書に従って始動してください。スロットルトリガーを放した後、カuttingアタッチメントはしばらく回転し続けます。**慣性回転効果によるものです！**

エンジンのアイドリングを点検します：(スロットルトリガーを放した) エンジンのアイドリング中は、カuttingアタッチメントは静止していなければなりません。

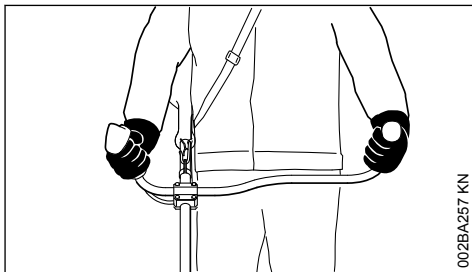
燃えやすい物 (木屑、樹皮、枯れ草、燃料など) は高温の排気ガスや高温のマフラー表面に近付けないでください。**火災が生じるおそれがあります！**

2.6 機械の保持と操作

必ず両手でパワーツールのハンドルをしっかりと保持します。

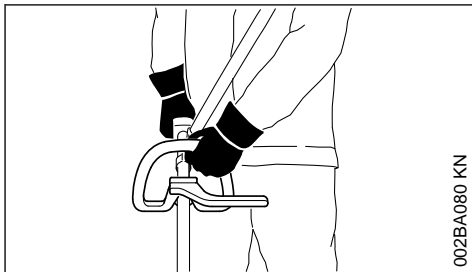
足場が常に安全で安定しているか確認します。

2.6.1 バイクハンドル付きの機種



右手でコントロールハンドルを握り、左手でハンドルバーのグリップを握ります。

2.6.2 ループハンドル付き機種

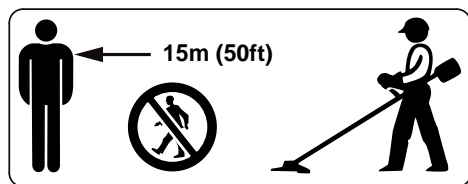


ループハンドルを左手で、コントロールハンドルを右手で握ります。左利きでも同様です。

2.7 作業時

足場が常に安全で安定しているか確認します。

差し迫った危険や緊急の場合、速やかにエンジンを停止します。停止スイッチ/スライドコントロールを 0 の方向に動かします。



作業エリア周辺の広範な場所には飛散物によって事故が生じる危険があるため、機械の半径 15 m 以内には誰も立ち入らせないでください。この距離は、物体（車両、窓ガラスなど）に対しても維持する必要があります。**物的損害が生じる危険があります！** 15 m 以上離れた場所においても、危険は皆無ではありません。

エンジンが適切なアイドルリング状態になるか点検します。スロットルトリガーを放すと、カッティングツールは停止しなければなりません。

定期的にアイドルリング回転数の設定を点検し、修正してください。アイドルリング回転時にもカッティングアタッチメントが回転する場合は、サービス店に調整または修理を依頼してください。STIHL 社では、本作業を STIHL サービス店で実施されることをお勧めしています。

滑りやすい場所では、特に注意してください。例えば濡れた面、雪や氷で覆われた面、斜面、凸凹のある地面。

樹木の切り株や根などの障害物に注意してください。**つまづく危険があります！**

地面の上に立った状態でのみ作業を行い、はしご、作業台、その他の不安定な表面では絶対に作業しないでください。

イヤープロテクターを着用している場合は、危険を告げる声（叫び声、警笛等）が聞こえにくくなるため、通常よりもさらに注意が必要です。

疲労を感じたときは休憩を取ってください。そうしないと**事故が起こるおそれがあります！**

冷静かつ慎重に作業を行ってください。日中の視界が十分なとき以外は作業を行わないでください。慎重に作業を進め、他者に危険が及ばないように配慮してください。



エンジンが始動するとすぐに、パワーツールから有毒な排気ガスが発生します。排気ガスは無臭で目に見えない場合があり、未燃焼の炭化水素とベンゼンが含まれているおそれがあり

ます。屋内や換気状態の悪い場所では、絶対にエンジンをかけないでください。触媒コンバータが装着されている機種でも同様です。

有毒ガスを吸い込んで重症または致命傷を負う危険を低減するために、溝、くぼ地、他の狭い場所での作業時は、適切に換気してください。

吐き気、頭痛、視覚障害（視野狭窄等）、聴覚障害、めまい、注意散漫が生じた場合は、直ちに作業を中止してください。濃度が非常に高い排気ガスを吸い込むと、そうした症状が現れる場合があります。**事故が生じるおそれがあります！**


機械は、騒音と排気ガスの発生が最小限になるように操作してください - 不必要にエンジンをふかさず、作業時のみエンジンを加速してください。

火災の危険を低減するために、作業中や機械の付近では喫煙は避けてください。 燃料システムから可燃性の気化燃料が漏れ出すおそれがあります。

作業中に発生する塵埃、噴霧、噴煙は健康を害することがあります。大量の粉塵または噴煙が発生する場合は、呼吸保護具を着用してください。

パワーツールに設計強度を超える異常な負荷が加わった（強い衝撃が加わるか、落下した）場合、必ずパワーツールが正常かどうか点検してから作業を続けてください（「作業開始前」も参照）。

特に燃料システムが漏れていないか点検し、安全装置が完全に作動しているか確認してください。安全に操作できなくなったパワーツールは、絶対に使用しないでください。ご不明な場合は、販売店にお問い合わせください。

チョークレバーを  暖機スタート位置に合わせたままパワーツールを操作しないでください。この位置ではエンジン回転数を調整できません。



飛散物によって**負傷する危険を低減するために**、使用するカッティングアタッチメントに合ったデフレクターが装着されていない場合は、絶対に機械を操作しないでください！



作業エリアを点検してください。岩や金属の物体などは挟まり、15 m を超える距離を飛散するおそれがあります。**負傷する危険があります！** そうした物体は、カッティングアタッチメントや他の器物（駐車中の車両、窓など）を損傷させることもあります。

作業が困難な、繁茂した場所での作業時は特に注意してください。

背の高い植え込み、植え込みの下側、生垣を刈払うときは、動物を危害を加えないよう、カッティングツールを 15 cm 以上の高さで保持します。

機械から離れる場合は、必ずエンジンを切ってください。

カッティングアタッチメントは定期的かつ頻繁に点検し、明らかな変化に気付いたときはすぐに点検してください。

- エンジンを切り、機械を確実に保持し、カッティングアタッチメントが停止するまで待ちます。
- 状態と固定具合を点検し、亀裂の有無を確認します。
- ダイヤモンド研削チェーンが鋭利な状態が確認します。
- 損傷しているか、切れ味が鈍くなったカッティングアタッチメントは、すぐに交換してください。細かなひび割れが見られる場合も同様です。

カッティングアタッチメントの取り付け部から定期的に草木の切れ端を取り除きます。カッティングアタッチメントとデフレクターに蓄積した異物は、取り除いてください。

ケガの危険を低減するために、エンジンを停止させてからカッティングアタッチメントを交換してください。



作業中はギアボックスが高温になります。絶対にギアボックスに触れないでください。**火傷をする危険があります！**

回転する金属製カッティングアタッチメントが岩や他の硬い物体に当たると、火花が発生し、可燃物が引火する可能性があります。特に乾燥した高温の気候下では、枯れた植物や茂みも引火します。火災の危険がある場合、可燃物、枯れた植物、茂みの付近で金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。火災が生じる危険性の最新情報に関して、必ず管轄森林管理事務所にお問い合わせください。

2.8 草刈ヘッドを使用する場合

取扱説明書に記載されている追加部品を装着してカッティングアタッチメントデフレクターを拡張します。

カッティングラインが承認されている長さに制限されるよう、ブレードが適切に取り付けられたデフレクターだけを使用してください。

手動調整式草刈ヘッドでは、必ずエンジンを切ってからカッティングラインを調整してください。**負傷する危険があります！**

長すぎるナイロンラインを使用すると、エンジンの回転数が低下します。常にクラッチが滑ると、例えばアイドリング時のカッティングアタッチメントの回転によって重要部品（クラッチ、ブラ

スチックハウジング部品など）が過熱したり、損傷したりします。**負傷する危険があります！**

2.9 金属製カッティングアタッチメントを使用する場合

STIHL 社では、STIHL 純正の金属製カッティングアタッチメントの使用をお勧めしています。そうした純正品は、機械とお客様の要件に対して最適化されています。

金属製カッティングアタッチメントは超高速で回転し、発生する力がアタッチメントと切断物に加わります。

金属製カッティングアタッチメントは、規定に従って定期的に目立てしてください。

均一に目立てされていない金属製カッティングアタッチメントはアンバランスになり、機械に極端に大きな負荷が加わることがあります。**損傷する危険があります！**

切れ味の悪い刃先や目立てが不適切な刃先はカッティングアタッチメントの負荷を高め、部品の亀裂や破損によって**負傷する危険**を増大させることがあります。

硬い障害物（石、岩、金属片など）に接触した後は、毎回、金属製カッティングアタッチメントに損傷（亀裂や変形など）が生じていないか点検してください。機械の使用中に剥がれ、飛散するおそれがあるため、バリや他の蓄積物は取り除いてください。放置すると**負傷する危険があります！**

損傷や亀裂が生じたカッティングアタッチメントを引き続き使用したり、溶接、矯正、形状変更による修理を試みたりしないでください（アンバランスな状態が生じます）。

破片が高速で飛散して作業者や見物人に当たるとおそれがあります。**重傷を負う危険があります！**

金属製カッティングアタッチメント使用時に上記の危険を低減するために、直径が大きすぎる金属製カッティングアタッチメントを使用しないでください。重すぎるカッティングアタッチメントも使用しないでください。高品質の素材で製造され、適切な形状（外形、厚み）でなければなりません。

STIHL 製以外の金属製カッティングアタッチメントを使用するときは、STIHL 社が本パワーツールモデル用に承認した最大の金属製カッティングアタッチメントと比較して重量、厚み、直径がそれを上回っている製品や、形状が異なっている製品は使用しないでください。**ケガをする危険があります！**

2.10 振動

チェンソーを長時間使用した場合には、振動の影響により手の血行不良が生じることがあります（「白ろう病」）。

以下をはじめ、多くの事柄が影響するため、一般的な使用時間の設定は不可能です。常に各国の安全規制、基準、条例をお守りください。

以下の対策をとると使用時間を延長できます：

- － 手の防護（暖かい手袋）
- － 休憩を取りながら作業する

以下の場合には使用時間を短くします：

- － 血行不良の特殊体質（症状：指が頻繁に冷たくなる、指が疼く）。
- － 低い外気温。
- － ハンドルを握む力の強さ（握む力が強いと血行が低下します）。

機械を日常的に長時間使用したり、該当する症状（指のしびれ等）が繰り返し発症する時は、医師による診断をお薦めします。上記のいずれかの症状が現れたら（指が疼くなど）、医師にご相談ください。

2.11 整備と修理

定期的には本機を整備してください。取扱説明書に書かれている整備や修理だけを行ってください。その他すべての作業はスチール サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店にのみ依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。これに関して、不明な方はスチール サービス店へお問い合わせください。

当社ではスチール純正交換部品のご使用をお勧めします。これらの部品は、お客様の機種およびご使用になる性能要件に合わせて、特別に設計されています。

不意にエンジンが始動してケガをする危険性を軽減するために、修理、保守、および清掃作業前には常にエンジンを停止して、スパークプラグターミナルを取り外してください。－ 例外：キャブレターおよびアイドリング回転数の調整。

スパークプラグターミナルまたはスパークプラグを外した状態で、スターターを作動しないでください。火花を抑制できずに火災が発生する可能性があります。

火災の危険性を回避するため、火気の近くで修理したり、保管したりしないでください。

燃料フィルター キャップにもれがないか定期的に点検してください。

当社で承認されたタイプで、支障なく作動するスパークプラグを使用してください（「技術仕様」の項を参照）。

イグニッション ケーブルに異常がないこと（良好な絶縁状態、接続の確実性）を確認してください。

マフラーに異常が無いことを確認してください。

火災の危険や聴覚障害を避けるために、破損したマフラーを取付けたまま、あるいはマフラーがないまま作業しないでください。

高温のマフラーに触れて、火傷しないようにしてください。

2.12 デフレクター上の記号

デフレクターの矢印は、カッティング アタッチメントの適正な回転方向を示しています。

以下の記号の一部がデフレクターの外側に付いていることがあります。承認済みのカッティング アタッチメントとデフレクターの組み合わせであることを示します。



デフレクターは、カッティングヘッドとの組合せだけに使用してください。金属製カッティング アタッチメントを使用しないでください。



デフレクターを、ブラシュナイフまたはサーキュラーソーブレードと一緒に使用しないでください。

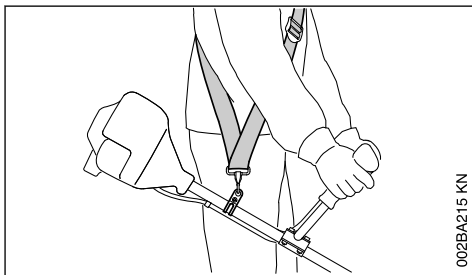


デフレクターをカッティングヘッドと一緒に使用しないでください。



草刈りブレードと組み合わせたデフレクターのみを使用してください。

2.13 肩掛けベルト

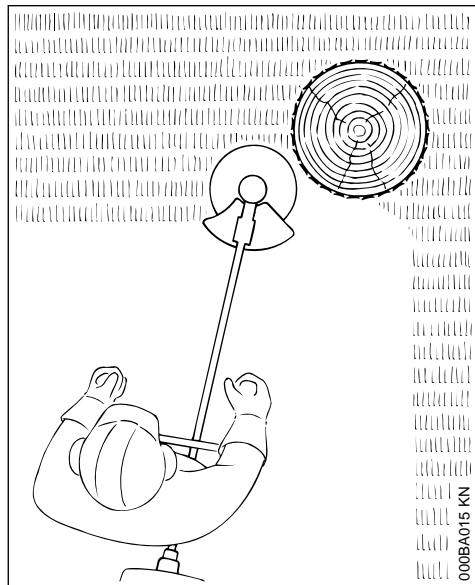


▶ 肩掛けベルトを使用します。

- ▶ エンジンをかけた状態では、本機を肩掛けベルトに吊り下げます。

草刈ブレードには必ず肩掛けベルトを使用してください。

2.14 ナイロンラインを装備したカッティングヘッド



ナイロンラインにより、木やフェンス柵などの周囲の縁取りやトリミングをきれいに仕上げるためのソフトカットが可能です - 樹皮はほとんど傷付きません。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書の説明に従い、カッティングヘッドにナイロンラインを取り付けます。



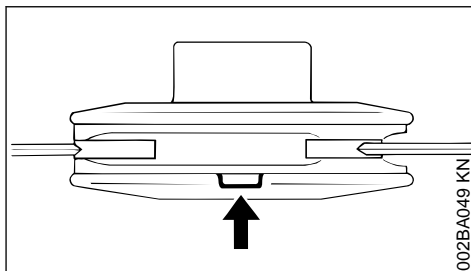
警告

絶対にナイロンラインの代わりに鉄製ワイヤーをしないでください。重度の傷害の危険があります。

2.15 ポリマーブレード付きスチールポリカットカッティングヘッド

牧草の茂った草木の刈り込み用(生垣、フェンス、木々などの障害物がない場合)

磨耗限度マークに注意してください！



ポリカットカッティングヘッドの磨耗限度マークの1つでも、ベース側に穴(矢印)があいた場合: カッティングヘッドの使用を中止してください。新品と交換してください。そうしないと、カッティングヘッドからの飛散物でケガする危険があります。

ポリカットカッティングヘッドの整備に関する注意事項を遵守してください。

ポリカットには、ポリマーブレードの代わりにカッティングラインを装備することもできます。

カッティングヘッドには取扱説明書が付属しています。取扱説明書に従い、カッティングヘッドにポリマーブレードまたはナイロンラインを取り付けます。



警告

ナイロン製カッティングラインの代わりにワイヤーを絶対に使用しないでください - ケガをする危険があります。

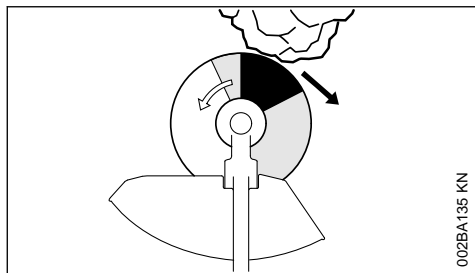
2.16 金属製カッティングアタッチメントの使用時の、キックバック(ブレードスラスト)の危険



警告

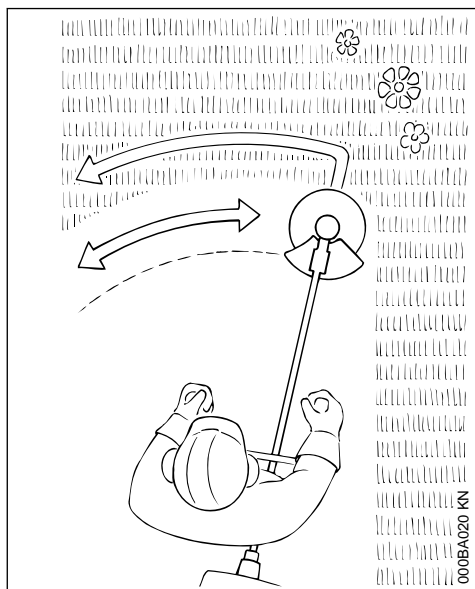


金属製カッティングアタッチメントを使用する場合、回転しているブレードが硬い障害物(木の根や枝、切り株、石など)に当たるとキックバックの危険があります。機械は、アタッチメントの回転方向と反対の、右または後方に跳ね返ります。



回転しているカッティングアタッチメントが黒い色の範囲で硬い障害物に当たった場合、キックバックの危険性が一層高まります。

2.17 草刈ブレード



芝や雑草のみに使用します - 鎌のように円弧状に刈払機を振ります。



不適切に刈払機を使用すると、草刈ブレードを損傷することがあります - 破損部分でケガをする危険があります。

草刈ブレードの切れ味が明瞭に低下した場合は、規定通りに目立てしてください。

3 組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス

カッティングアタッチメント デフレクター ハンドル キャリングストラップ

0000078675_004

3.1 使用可能な組み合わせ

使用するカッティングツールに応じて、表から適切な組み合わせを選択してください！



警告

安全上の理由から、表の同じ行に表示されているカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドル、ハーネスのみを組み合わせてください。それ以外の組み合わせは許容されません。**事故が起きる危険があります。**

3.2 カッティングアタッチメント

3.2.1 草刈ヘッド

- 1 STIHL SuperCut(スーパーカット) 20-2
- 2 STIHL AutoCut(オートカット) C 25-2
- 3 STIHL AutoCut(オートカット) 25-2

- 4 STIHL AutoCut(オートカット) C 26-2
- 5 STIHL TrimCut(トリムカット) 31-2
- 6 STIHL TrimCut(トリムカット) 32-2
- 7 STIHL DuroCut(デュロカット) 20-2
- 8 STIHL PolyCut(ポリカット) 20-3
- 9 STIHL PolyCut(ポリカット) 28-2

3.2.2 金属製カッティングツール

- 10 草刈ブレード 230-2
(直径 230 mm)
- 11 草刈ブレード 230-4
(直径 230 mm)
- 12 草刈ブレード 230-8
(直径 230 mm)
- 13 草刈ブレード 230-36
(直径 230 mm)

14 草刈ブレード 255-40
(直径 255 mm)

15 草刈ブレード 255-36
(直径 255 mm)



警告

非金属製の草刈ブレードは承認されていません。

3.3 デフレクター

16 草刈ヘッド用のライン制限ブレード付きデフレクター

17 草刈りブレード (最大直径 230 mm) 専用デフレクター

18 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター

3.4 ハンドル

19 ループハンドル

20 ループハンドル(以下の品目付き)

21 バリアバー

22 バイクハンドル

3.5 肩掛けベルト

23 肩掛けベルトを使用可能

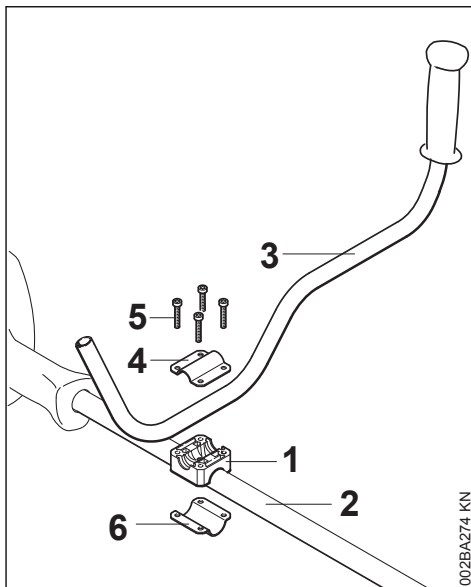
24 肩掛けベルトを必ず着用

25 フルハーネスを使用可能

4 バイク ハンドルの取り付け

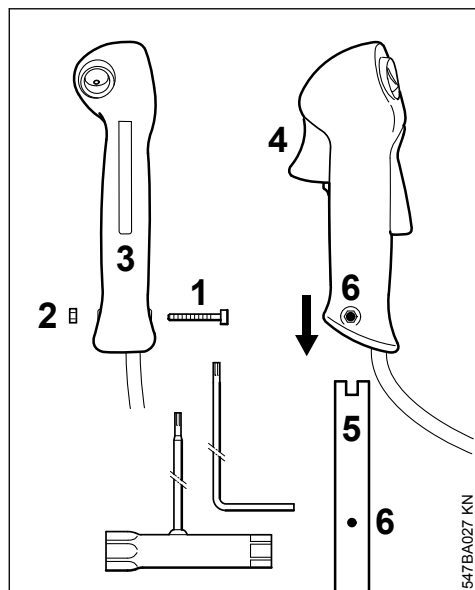
4.1 ハンドルバーの取り付け

エンジンハウジングから約 10 cm (4 インチ) 前方のドライブチューブ上にハンドルバーを取り付けます。



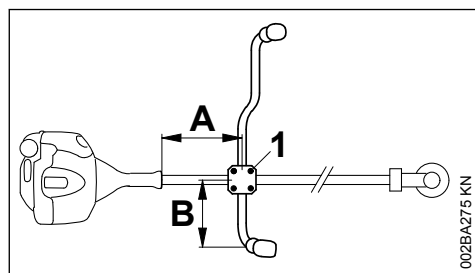
- ▶ ハンドルサポート (1) をドライブチューブ (2) に位置決めします。
- ▶ ハンドルバー (3) をハンドルサポートに位置決めします。
- ▶ クランプ (4) をハンドルサポートに取り付けます。スクリュー (5) を部品の穴に通し、止まるまでクランプ (6) にねじ込みます。この段階では、緩く締め付けます。

4.2 コントロールハンドルの取り付け



- ▶ スクリュー (1) を取り外します。ナット (2) はコントロールハンドル (3) 内に残ります。
- ▶ コントロールハンドルをハンドルバー (5) に押し込み、両方の穴 (6) を合わせます。スロットトリガー (4) をギアヘッドの方向を向けてください。
- ▶ スクリュー (1) を差し込み、しっかりと締め付けます。

4.3 ハンドルバーの調整および固定

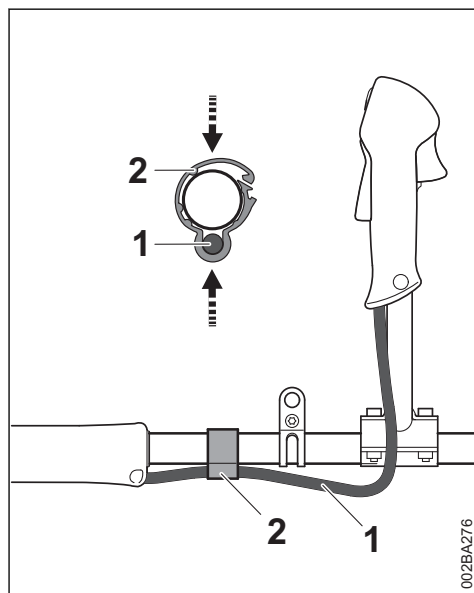


- ▶ 距離 (A) が約 20 cm (8 インチ)、距離 (B) が約 15 cm (6 インチ) になるようにハンドルバーの位置を揃えます。
- ▶ スクリュー (1) を対角線上でしっかりと締め付けます。

4.4 スロットルケーブルの取り付け

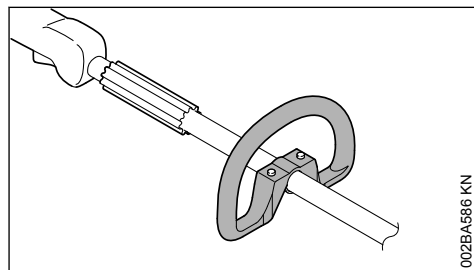
注記

折れ曲がったり、取り付け半径が小さくなったりしないよう注意してスロットルケーブルを取り付けます。スロットルトリガーがスムーズに動くことを確認してください。



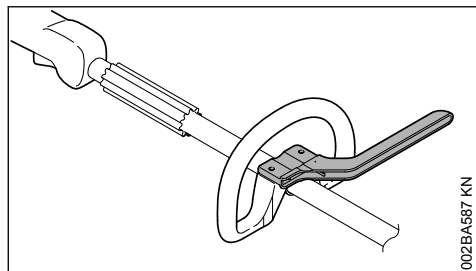
- ▶ スロットルケーブルリタイナー (2) とスロットルケーブル (1) をドライブチューブに位置決めします。
- ▶ スロットルケーブルリタイナー (2) を閉めます。リタイナー (2) がその位置で固定されます。

5 ループ ハンドルの取り付け



新品の機械はループハンドルが取り付けられた状態で工場から出荷されます。

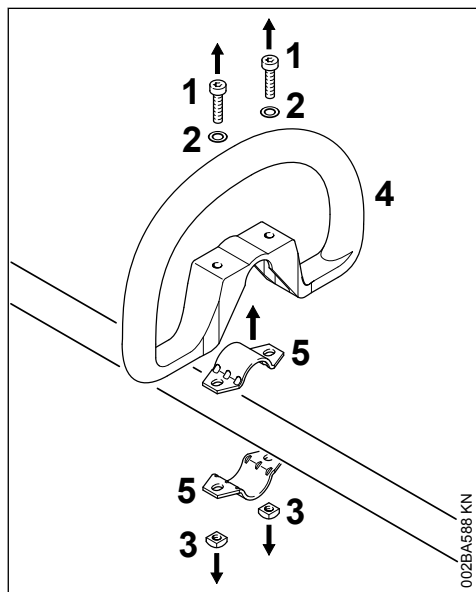
5.1 バリアバーの使用



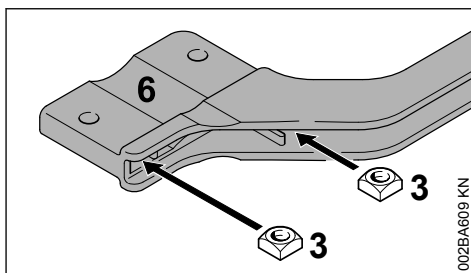
バリアバーは、使用するカッティングアタッチメントに適合するように取り付ける必要がある場合があります - 「組み合わせ可能なカッティングアタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス」を参照してください。

バリアバーは標準装備されているか、特殊アクセサリとして入手できます。

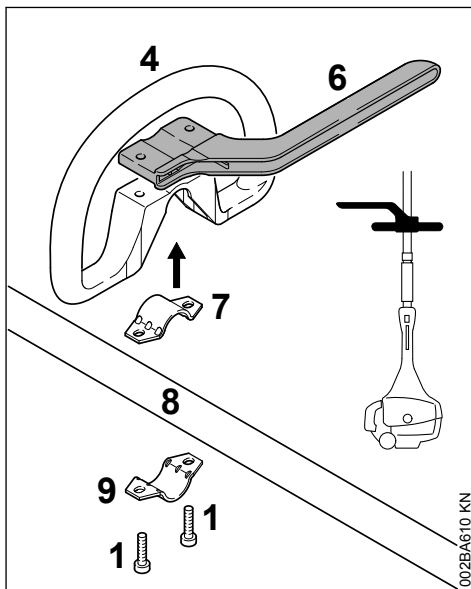
5.2 バリアバーの取り付け



- ▶ スクリュー (1) を取り外し、ワッシャー (2) とナット (3) と共に取り外します。
- ▶ ループハンドル (4) とクランプ (5) を取り外します。



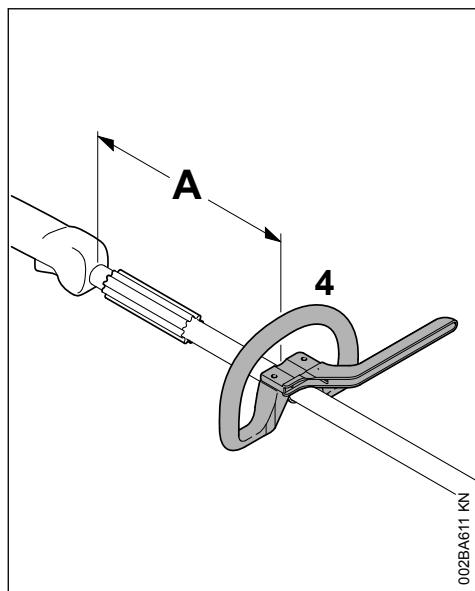
- ▶ 四角ナット (3) をバリアバー (6) に取り付けます。穴の位置を合わせてください。



- ▶ クランプ (7) をループハンドル (4) に合わせ、両部品をドライブチューブ (8) に位置決めします。
- ▶ クランプ (8) をドライブチューブに位置決めします。
- ▶ バリアバー (6) を図示されている位置に配置します。
- ▶ 穴の位置を合わせます。
- ▶ スクリュー (1) を穴に差し込み、当るまでバリアバーにねじ込みます。
- ▶ 「ループハンドルの調整と固定」を参照してください。

バリアバーは常にループハンドルに取り付けた状態にしておきます。

5.3 ループハンドルの調整と固定



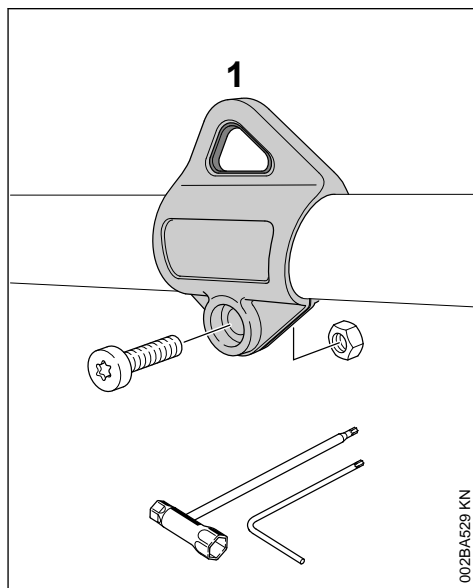
ループハンドルは、作業者の身長 / 手の長さや用途に合わせて距離 (A) を変更することで調整することができます。

推奨距離 (A) : 約 15 cm (5.9 in)

- ▶ ハンドルを必要な位置へ移動させます。
- ▶ ループハンドル (4) の左右位置を調整します。
- ▶ ループハンドルがドライブチューブ上で回転しなくなるまでスクリューを締め付けます。バリアバーが取り付けられていない場合 - 必要に応じてナットをロックします。

6 吊り下げ用リングの取り付け

6.1 ポリマーバージョン

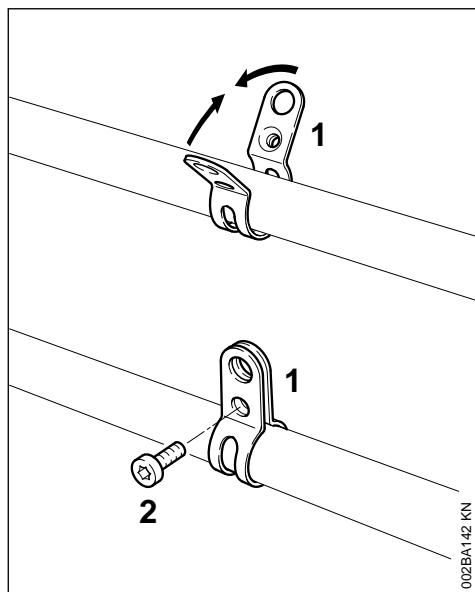


吊り下げ用リングの位置については、「主要構成部品」を参照してください。

- ▶ 吊り下げ用リング (1) をドライブチューブに押し込みます。
- ▶ M5 ナットを吊り下げ用リングの外部六角形に挿入します。
- ▶ M5x14 スクリューを取り付けます。
- ▶ 吊り下げ用リングの位置を調整します。
- ▶ スクリューでしっかりと締め付けます。

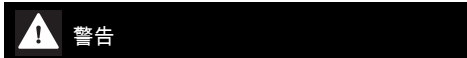
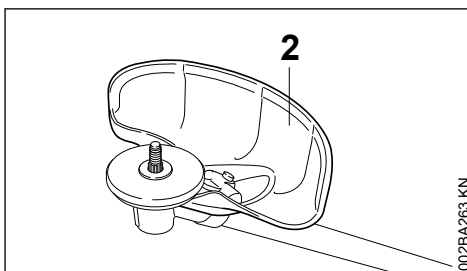
6.2 金属バージョン

吊り下げ用リングは標準装備されているか、あるいは特殊アクセサリとしても供給されます。



警告

デフレクター (1) はカッティングヘッドに対してのみ承認されているため、カッティングヘッドを取り付ける前に取り付ける必要があります。



警告

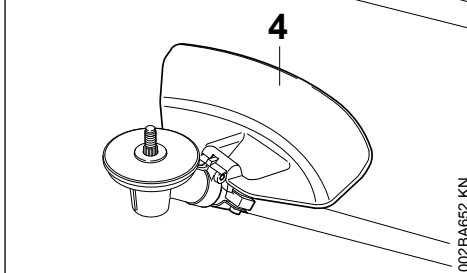
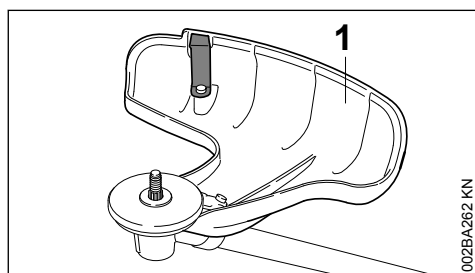
デフレクター (2) は直径 230 mm までの草刈りブレードに対してのみ承認されており、そのような草刈りブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。

吊り下げ用リングの位置については、「主要構成部品」を参照してください。

- ▶ ねじ穴付きクランプ (1) をエンジン側から見てねじ穴が左側になるように、ドライブチェーンに取り付けます。
- ▶ クランプの端を押し付けます。
- ▶ スクリュー M6x14 (2) を差し込みます。
- ▶ 吊り下げ用リングの位置を調整します。
- ▶ スクリューでしっかりと締め付けます。

7 デフレクターの取付け

7.1 正しいデフレクターの使用



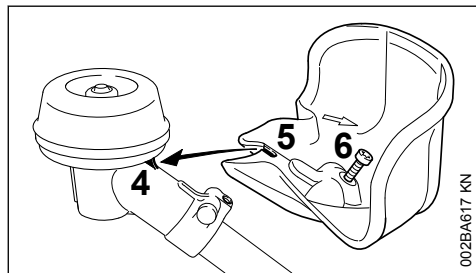


警告

デフレクター (3 および 4) は直径 255 mm までの草刈りブレードに対してのみ承認されており、そのような草刈りブレードを取り付ける前に取り付ける必要があります。

7.2 デフレクターの取り付け (1、2、および 3)

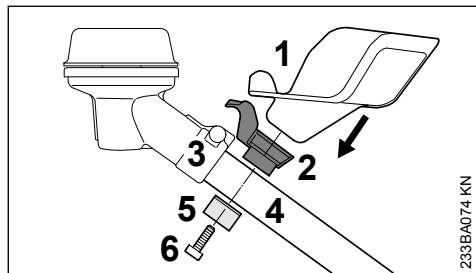
デフレクター (1、2、および 3) はすべて、ギヤボックスに同様に取り付けます。



002BA617 KN

- ▶ デフレクターをギヤボックスに位置合わせして、突出部 (4) がデフレクターのくぼみ (5) にかみ合うようにします。
- ▶ スクリュー (6) をしっかりと締め付けます。

7.3 デフレクター (4) の取り付け

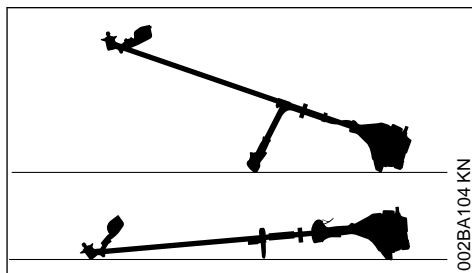


233BA074 KN

- ▶ クランプ (2) とデフレクター (1) をドライブチューブ (4) およびギヤボックス (3) に合わせます。
- ▶ クランプ (5) をデフレクターの上に付け、穴に合わせます。
- ▶ スクリュー (6) を差し込み、しっかりと締め付けます。
- ▶ デフレクターがしっかりと取り付けられたことを確認し、必要があればスクリューを再び締めます。

8 カutting アタッチメントの取付け

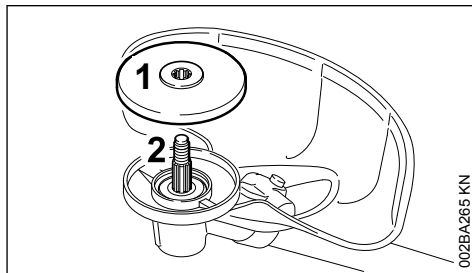
8.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カutting アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

8.2 スラストプレートの取り付け

スラストプレートは、機械に標準装備されています。



- ▶ スラストプレート (1) をシャフト (2) の上に差し込みます。

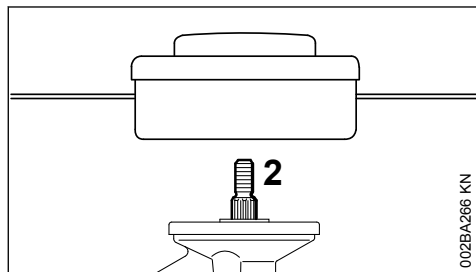
注記

ギアボックスのスラストプレートは、カutting ツールの取り付けに必要です。

8.3 カutting アタッチメント固定用パーツの取り付け

納入される固定用パーツは、新しい刈払機に付属するカutting アタッチメントによって異なります。

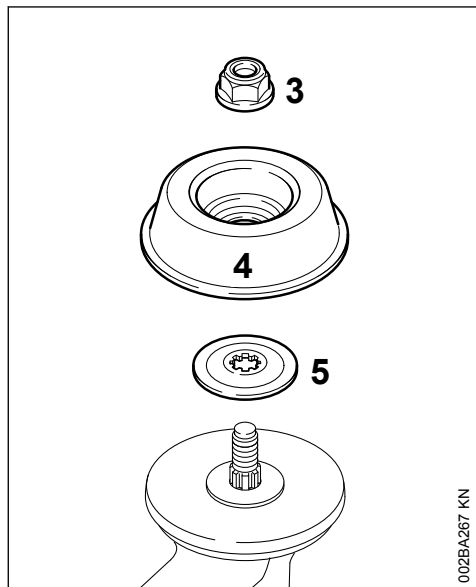
8.3.1 カutting アタッチメント固定用 パーツが機械に同梱されていない場合



シャフト (2) に直接取り付けするカutting ヘッドのみが使用されます。

8.3.2 カutting アタッチメント固定用 パーツが機械に同梱されている場合

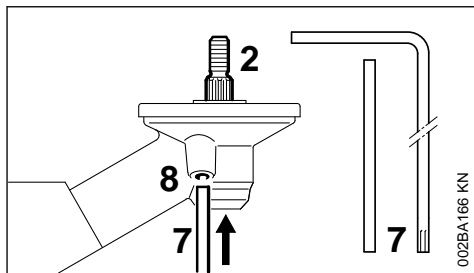
カutting ヘッドおよび金属製カutting ツールが取り付けられます。



ナット (3)、ライダープレート (4) およびスラストワッシャー (5) は、特定のカutting ヘッドを固定するために必要です。

これらの部品は、機械と一緒に提供されるキットに含まれており、特殊アクセサリとしても供給されます。

8.4 シャフトを固定します。



出力シャフト (2) をストップピン (7) またはスクリュードライバー (7) で固定してから、カutting ツールの取り付けまたは取り外しをする必要があります。これらの部品は、機械に標準装備されているが、特殊アクセサリとして供給されます。

- ▶ ストップピン (7) またはオフセットスクリュードライバー (7) を、ギアボックスの穴 (8) に止まるまで差し込みます - さらに少し押しします。
- ▶ リミットストップが所定の位置にはまりシャフトが固定されるまで、シャフトまたはカutting アタッチメントを回します。

8.5 カutting アタッチメントの取付け

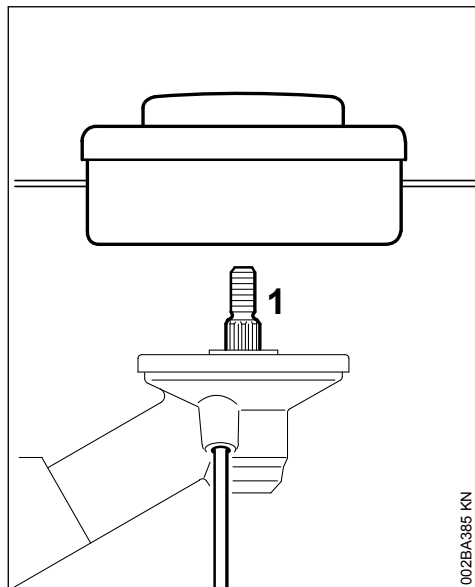


警告

カutting アタッチメントに適合するデフレクターを使用します - 「デフレクターの取り付け」を参照してください。

8.6 スクリュー取り付け部付き草刈ヘッドの取り付け

草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。



002BA385 KN

- ▶ スラストプレートを取り付けます
- ▶ 草刈ヘッドをシャフト (1) 上で止まるまで反時計回りにまわします
- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを締め付けます

注記

シャフトを固定するために使用した工具を取り外します。

8.7 草刈ヘッドの取り外し

- ▶ シャフトを固定します
- ▶ 草刈ヘッドを時計回りにまわします

8.8 金属製カutting アタッチメントの取り付け

金属製カutting ツールの取扱説明書および包装を、安全な場所に保管してください。

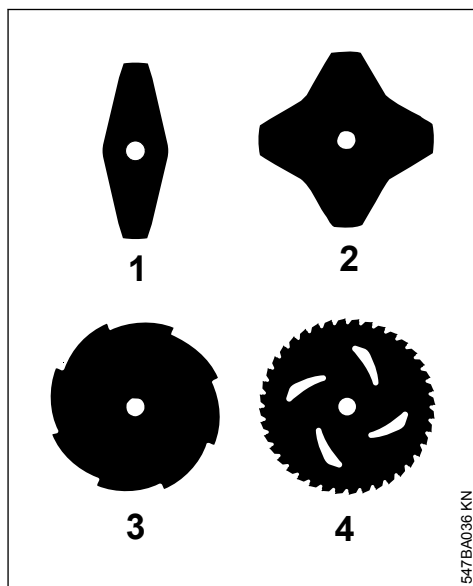


警告

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

金属製カutting アタッチメントのみ取り付けてください。

カutting アタッチメントの回転方向の確認



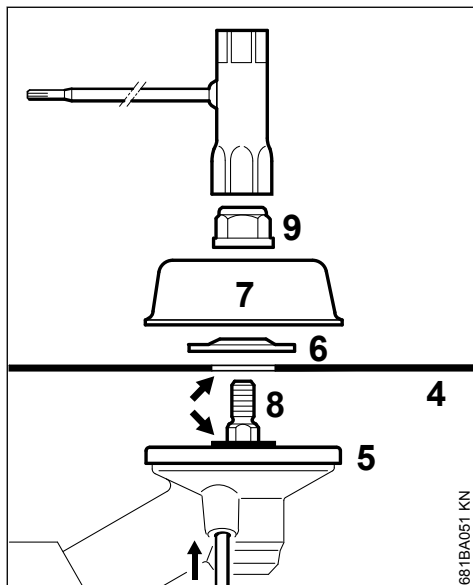
547BA036 KN

草刈ブレード (1) と (2) の刃先は、いずれの方向を向いていてもかまいません - これらのカutting アタッチメントは、向きを定期的に変えて、片側だけが磨耗しないようにする必要があります。

草刈ブレード (3) および (4) の刃先は、時計方向を向いている必要があります。

**警告**

回転方向は、デフレクターの内側に、矢印で示されています。



- ▶ カutting アタッチメント (4) をスラストプレート (5) 上に置きます。

**警告**

カラー (矢印) がカutting アタッチメントの取り付け穴に入っている必要があります。

カutting アタッチメントの固定

- ▶ スラスト ワッシャー (6) を取り付けます。凸側は上方を向いている必要があります。
- ▶ ライダープレート (7) を取り付けます。
- ▶ シャフト (8) を固定します。
- ▶ 取り付けナット (9) をシャフトに装着し、反時計方向に回してしっかりと締め付けます。

**警告**

取付けナットが緩くなりすぎたら、新しいナットを取り付けてください。

注記

シャフト固定用ツールを抜き取ります。

8.9 金属製カutting アタッチメントの取り外し

**警告**

保護手袋を着用し、鋭利な刃先に直接触れる危険を低減します。

- ▶ シャフトを固定します。
- ▶ ナットを時計回りに回して取り外します。
- ▶ カutting アタッチメントおよびその取り付け部品をギアボックスから外します。ただし、スラストプレート (5) は外さないでください。

9 燃料

エンジンには、ガソリンとエンジンオイルの混合燃料が必要です。

**警告**

燃料に直接触れたり、ガソリンの気化ガスを吸い込んだりしないよう注意してください。

9.1 STIHL MotoMix (モトミックス)

STIHL 社では、STIHL MotoMix の使用をお勧めしています。このあらかじめ混合された燃料はベンゼンや鉛を含まず、高オクタン価を特徴とし、常に適切な混合比をもたらします。

STIHL MotoMix には、エンジン寿命を最長化するために STIHL HP Ultra 2 ストロークエンジンオイルが使用されています。

MotoMix は、販売されていない市場もあります。

9.2 燃料の混合

注記

仕様と異なる不適切な燃料や混合比を用いると、エンジンに重度の損傷が生じるおそれがあります。低品質のガソリンやエンジンオイルは、エンジン、ガスケット、燃料ライン、燃料タンクを損傷させることがあります。

9.2.1 ガソリン

オクタン価が 90 以上の**高品質ガソリン**だけを使用してください。無鉛、有鉛は問いません。

アルコール濃度が 10% を超えるガソリンは、手動調整可能キャブレター付きエンジンではエンジン性能を低下させるおそれがあるため、そうしたエンジンには使用しないでください。

M-Tronic 搭載エンジンは、アルコール濃度が 27% までのガソリン(E27)を使用して本来の性能を発揮します。

9.2.2 エンジンオイル

ご自身で燃料を混合する場合は、STIHL 2 ストロークエンジンオイルまたは JASO FB、JASO FC、JASO FD、ISO-L-EGB、ISO-L-EGC あるいは ISO-L-EGD に準拠する他の高性能エンジンオイルを使用してください。

機械が寿命に達するまでの全期間で排ガス基準が満たされるよう、STIHL 社では STIHL HP Ultra(ウルトラ) 2 ストロークエンジンオイルまたは同等の高性能エンジンオイルの使用を指定しています。

9.2.3 混合比率

1:50 の比率で STIHL 2 ストロークエンジン オイルとガソリンを混合してください(オイル 1 に対してガソリン 50)。

9.2.4 例

ガソリン量	STIHL 2 ストロークエンジンオイル 1:50
リットル	リットル (ml)
1	0.02 (20)
5	0.10 (100)
10	0.20 (200)
15	0.30 (300)
20	0.40 (400)
25	0.50 (500)

- ▶ 承認されている安全な燃料容器にオイルを注入してからガソリンを加え、完全に混ぜ合わせます。

9.3 混合燃料の保管

燃料は承認されている安全な燃料容器に入れ、乾燥して涼しく、安全な、照明や太陽光から保護された場所に保管します。

混合燃料は時の経過に伴って劣化します - 数週間分の必要量だけを混合してください。混合燃料は 30 日以上保管しないでください。照明、太陽光、低温、高温にさらすと、混合燃料はより短期間で使用できなくなることがあります。

STIHL MotoMix は、問題なく最長 5 年間保管することができます。

- ▶ 混合燃料が入った容器(携行缶)をよく振ってから給油してください。



警告

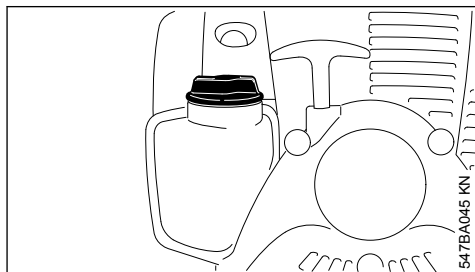
携行缶の内圧が高まっている可能性があるため、キャップは慎重に開けてください。

- ▶ 混合燃料を保管する燃料タンクや容器は、ときどき徹底的に清掃してください。

残存する燃料や清掃に使用した液体は、規制に従って環境に害を及ぼさないように廃棄してください!

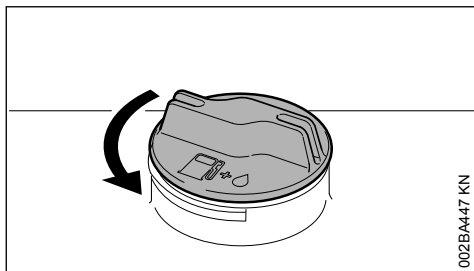
10 給油

10.1 準備



- ▶ 給油する前に、汚れがタンクの中に入るのを防ぐため、タンクキャップとその周りをきれいにしてください。
- ▶ タンクキャップが上を向くように機械を置きます。

10.2 タンクキャップを開ける



002BA447 KN

- ▶ タンク開口部から外れる状態になるまで、キャップを反時計回りに回転させます。
- ▶ タンクキャップを取り外します。

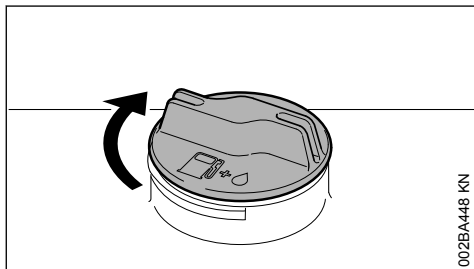
10.3 燃料の補充

給油時は、燃料をこぼしたり、あふれさせたりしないよう注意してください。

STIHL 社では、燃料用 STIHL フィラーノズル (特殊アクセサリ) の使用をお勧めしています。

- ▶ 燃料を補充します。

10.4 タンクキャップを閉じる



002BA448 KN

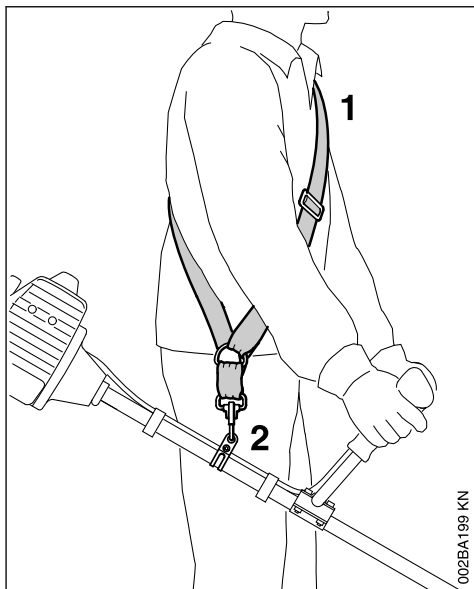
- ▶ キャップを開口部に載せます。
- ▶ キャップを時計回りに止まるまで回転させます。手でできるだけきつく締め付けてください。

11 ハーネスの取付け

市場によって、ハーネスのタイプとスタイルが変わります。

ハーネスの使用法は、「各機種に組み合わせ可能なカッティング アタッチメント、デフレクター、ハンドルおよびハーネス」の章を参照してください。

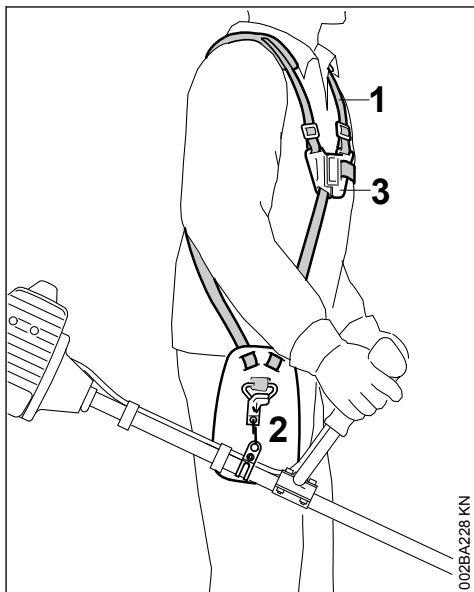
11.1 肩掛けベルト



002BA199 KN

- ▶ 肩掛けベルト (1) を肩に掛けます。
- ▶ ベルトの長さを調整して、カラビナ (2) が、右腰から手幅分下の位置にくるようにセットします。
- ▶ 機械のバランスを取ります。

11.2 フル ハーネス



002BA228 KN

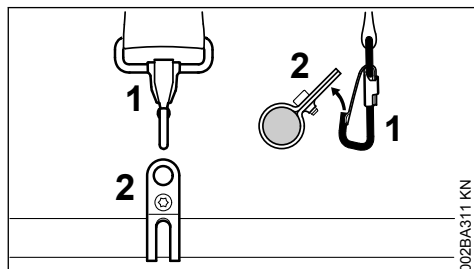
- ▶ ハーネス (1) を着用し、ロッキングプレート (3) を閉じます。
- ▶ ベルトの長さを調整します - 機械を取り付けた状態で、カラビナ (2) が作業者の右腰下で片手くらいの幅になるようにする必要があります。
- ▶ 機械のバランスを取ります - 「機械のバランスの取り方」を参照してください。

12 ユニットのバランス

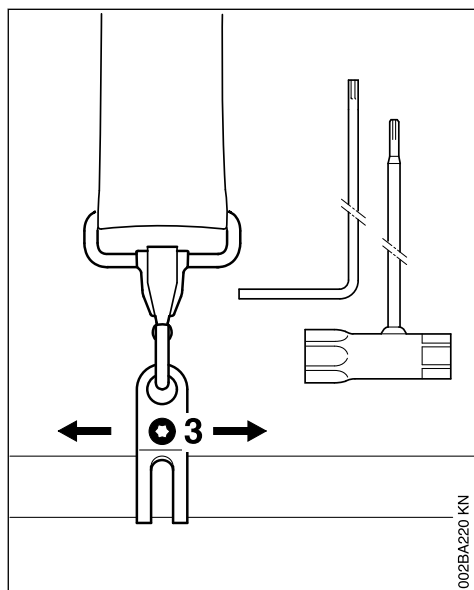
ハーネスとカラビナ (スプリング フック) のタイプとスタイルは、市場によって異なります。

吊り下げ用リングは、ループハンドルのコントロールハンドルに一体化されています - 「主要構成部品」を参照してください。ループハンドルは、バランス調整する必要がありません。

12.1 ハーネスへの機械の取り付け

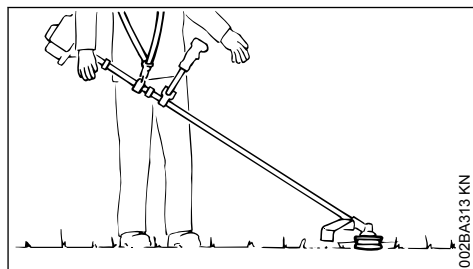


- ▶ カラビナ (1) をドライブ チューブの吊り下げ用リング (2) に掛けます。



- ▶ スクリュー (3) を緩めます。

12.2 浮動位置



- ▶ 通常の作業姿勢で、カッティングヘッドおよび草刈りブレードが地面に軽く触れる必要があります。

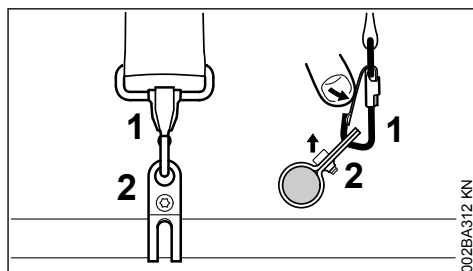
次の手順に従って、浮動位置を調整します。

- ▶ 吊り下げ用リングをドライブチューブで上下に動かします - スクリューを軽く締めつけます - 装置を浮かせ、バランスが取れるまで待ちます - その後浮動位置を確認します。

適切な浮動位置に設定できた後：

- ▶ 吊り下げ用リングのスクリューをしっかりと締め付けます。

12.3 ハーネスからの機械の取り外し

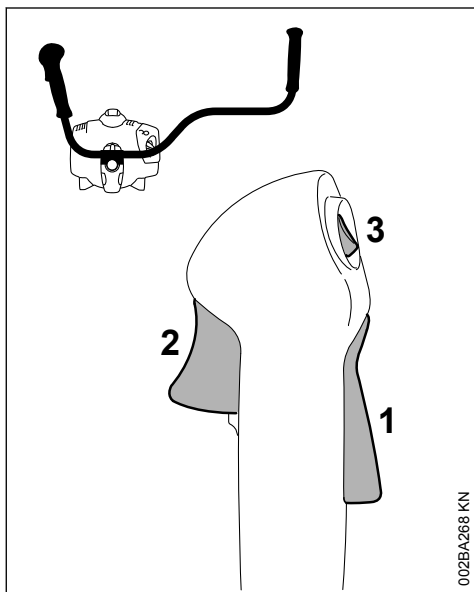


- ▶ カラビナのバー (1) を押して、吊り下げ用リング (2) をカラビナから引き抜きます。

13 エンジンの始動と停止

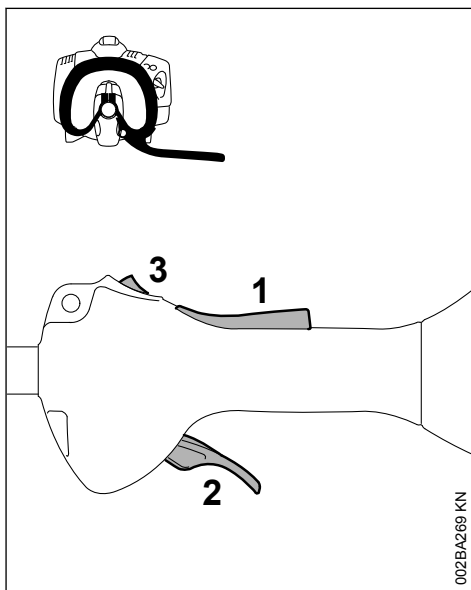
13.1 操作部

13.1.1 バイクハンドルバージョン



- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 運転および 0 = 停止位置付き停止スイッチ。

13.1.2 ループハンドルバージョン

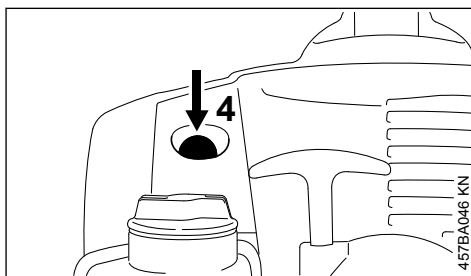


- 1 スロットルトリガーロックアウト
- 2 スロットルトリガー
- 3 運転および 0 = 停止位置付き停止スイッチ。

13.1.3 停止スイッチとイグニッションシステムの機能

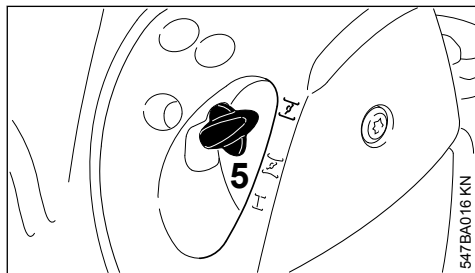
停止スイッチは、押されていない場合は通常、運転位置にあります。イグニッションはオンです - エンジン始動準備ができています。停止スイッチを 0 の位置に押すと、イグニッションスイッチはオフになります。エンジンが停止してから、イグニッションは自動的に再びオンになります。

13.2 エンジンの始動



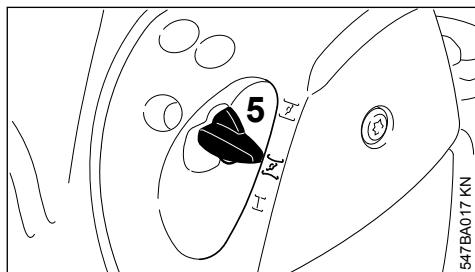
- ▶ 手動燃料ポンプ (4) を最低 5 回押してください - ポンプに燃料が充填されている場合でも、同様の操作を行います。

13.2.1 冷機エンジン (冷機スタート)



- ▶ チョークレバー (5) を押し込みながら、**I** の位置に回します。

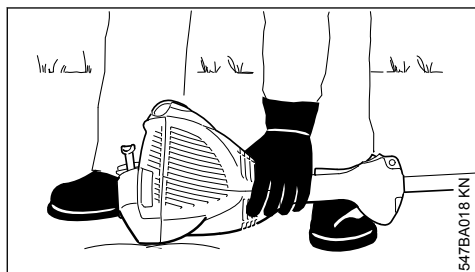
13.2.2 暖機エンジン (暖機スタート)



- ▶ チョークレバー (5) を押し込みながら、**II** の位置に回します。

エンジン始動後、完全に暖機されていない場合もこの位置を使用します。

13.2.3 始動操作



- ▶ 機械を地面に置きます: エンジンサポートとデフレクターを地面にしっかりと当てます。
- ▶ 装着されている場合: 運搬用ガードを Cutting アタッチメントから取り外します。

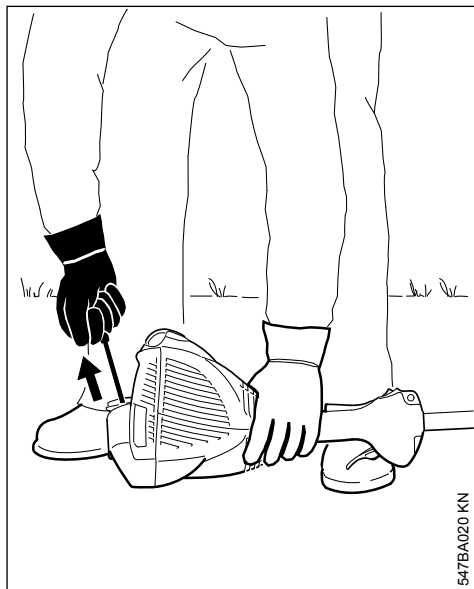
事故が生じる危険を低減するために、Cutting アタッチメントが地面あるいはその他の物体と接触していないことを確認します。

- ▶ 立つか、かがむか、ひざまずいて安定した足場を確保します。

- ▶ 機械を左手で地面にしっかりと固定して、押し付けます - スロットトリガーやロックアウトレバー、停止スイッチに触れないようにしてください。

注記

ドライブチューブに足を載せたり、ひざまずいたりしないでください。



- ▶ 右手でスターターグリップを握ります。

13.2.4 エルゴスタートなしの機種

- ▶ スターターグリップをゆっくりと引き、かみ合った感じがしたら、素早く勢い良く引っ張ります。

13.2.5 エルゴスタート付き機種

- ▶ スターターグリップをしっかりと引きます。

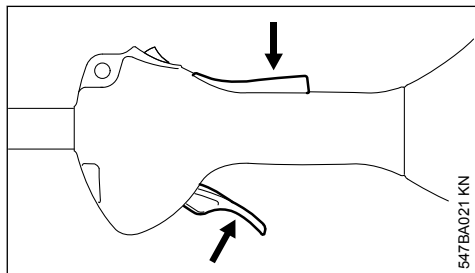
注記

スターターロープは最後まで引き出さないでください - **切れるおそれがあります。**

- ▶ スターターグリップを急に離さないでください。手を添えてハウジング内にゆっくりと戻すと、スターターロープは適切に巻き込まれます。

- ▶ エンジンがかかるまで始動操作を続けます。

13.2.6 エンジンがかかったらすぐに



- ▶ スロットルトリガーロックアウトを押し下げて、スロットルを開きます - チョークレバーが運転位置 I に移動します。冷機スタートの後では、スロットルを数回開いてエンジンを暖めます。

警告

キャブレターが適正に調整されていることを確認します。エンジンのアイドリング回転時に、カッティングアタッチメントが回転しないよう調整してください。

これで機械の使用準備が完了しました。

13.3 エンジンの停止

- ▶ 停止スイッチを 0 の方向に移動します - エンジンが停止します - 停止スイッチを放します - 停止スイッチが自動的に運転位置に戻ります。

13.4 始動に関するその他の注意事項

エンジンが冷機スタート位置 Ⅰ または加速状態でストールする

- ▶ チョークノブを Ⅱ に移動して、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンが暖機スタート位置 Ⅱ でかからない

- ▶ チョークノブを Ⅰ に移動し、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

エンジンがかからない場合

- ▶ すべての設定が正しいか確認します。
- ▶ 燃料タンク内に燃料があるか確認し、必要に応じて給油します。
- ▶ スパークプラグターミナルが適正に接続されているか確認します。
- ▶ 始動手順を繰り返します。

エンジン燃焼室への燃料吸い込みすぎ

- ▶ チョークノブを I の位置に合わせ、エンジンがかかるまで始動操作を繰り返します。

燃料タンクが完全に空になった場合

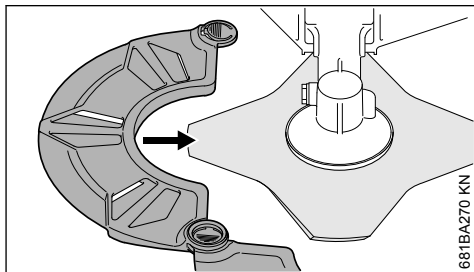
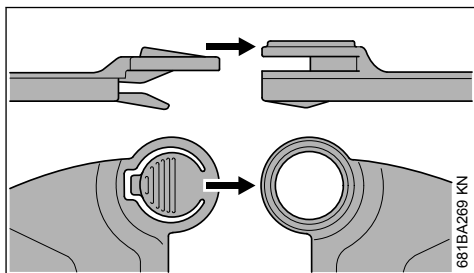
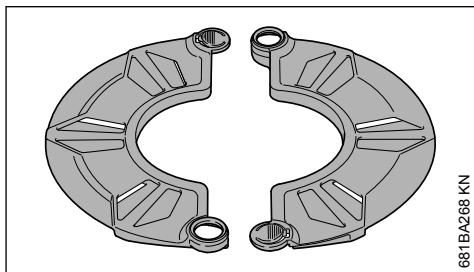
- ▶ 再給油後、手動燃料ポンプにすでに燃料が充填されている場合でも、燃料ポンプを最低 5 回押ししてください。
- ▶ エンジン温度に合わせてチョークレバーをセツトします。
- ▶ エンジンを再始動します。

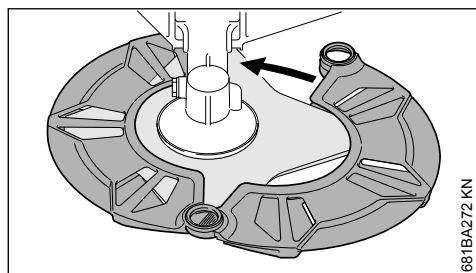
14 機械の運搬

14.1 運搬用ガードの使用

本機とともに提供される運搬用ガードの種類は、金属製カッティングアタッチメントの種類によって異なります。運搬用ガードは特別な付属品として供給されます。

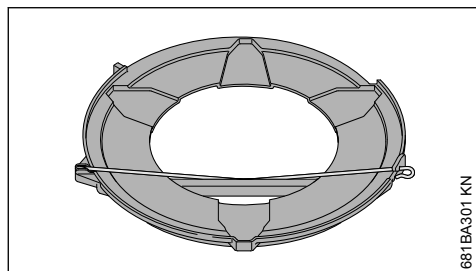
14.2 230 mm 草刈ブレード



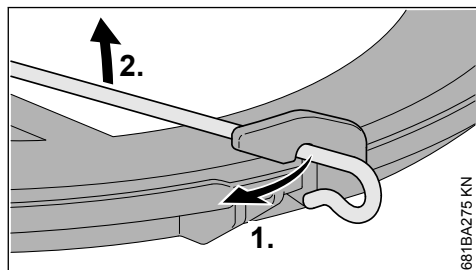


681BA272 KN

14.3 最大 260 mm の草刈ブレード

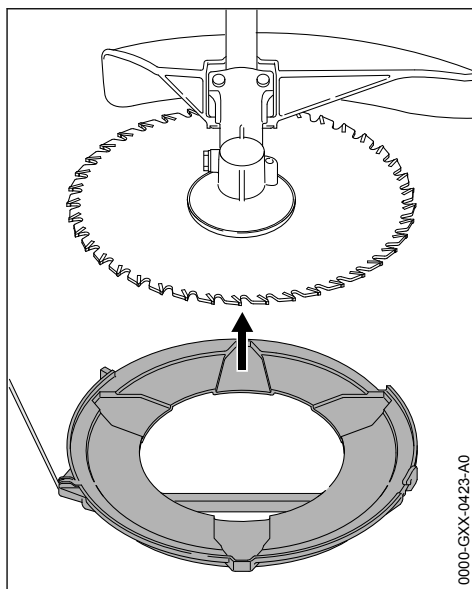


681BA301 KN



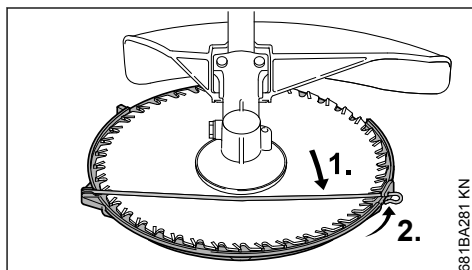
681BA275 KN

- ▶ 運搬用ガードからワイヤーロッドを外します。
- ▶ ワイヤーロッドを外側に回します。



0000-GXX-0423-A0

- ▶ 運搬用ガードを下側からカッティングアタッチメントに取り付けます。



681BA281 KN

- ▶ ワイヤーロッドを所定の位置に回します。
- ▶ ワイヤーロッドを運搬用ガードに引っ掛けま

15 作業中の注意事項

15.1 ならし運転

新品の機械は、最初の燃料 3 タンク分の間は、高速回転(無負荷でフルスロットル)で運転しないでください。これでならし運転中の不要な高負荷を避けます。すべての動く部品は、ならし運転中になじんでくるので、この期間はエンジンの摩擦抵抗が大きくなっています。エンジンの最高出力を発揮できるのは、タンク 5~15 回分の使用後となります。

15.2 作業中

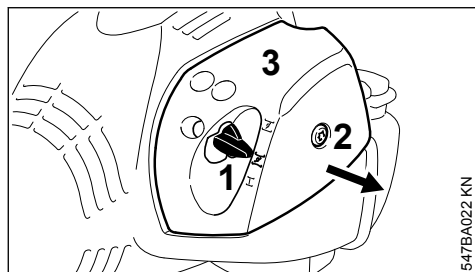
長時間のフルスロットル運転後は、しばらくの間アイドリングしてエンジンの熱を冷却風で放熱してください。組み込まれている部品(イグニッションやキャブレター)を熱から守るためです。

15.3 作業後

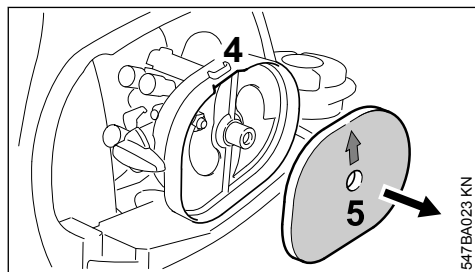
短期間使用しない場合：エンジンが冷えるまで待ちます。燃料タンクを空にして、次の使用時まで火気のない乾燥した状態で保管します。長期間に未使用の場合は、「機械の保管」を参照してください。

16 エアフィルターの掃除

16.1 エンジンの出力が著しく低下した場合は



- ▶ チョークレバー (1) を に動かします。
- ▶ フィルターカバー (3) のスクリュー (2) をカバークラッチまで反時計回りに回します。
- ▶ フィルターカバー (3) を取り外します。
- ▶ フィルターの周りに付着した汚れを取り除きます。



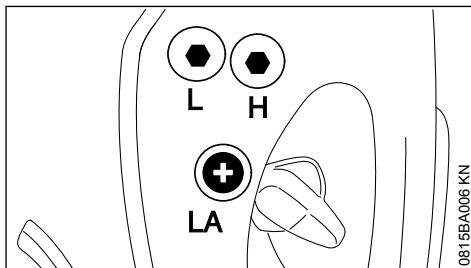
- ▶ フィルターハウジングの溝 (4) からフェルトフィルター (5) を取り外します。
- ▶ 新しいフェルトフィルターエレメント (5) を取り付けます。補助的な方法として、手の平で叩くか、エアで汚れを吹き飛ばします。洗わないでください。

注記

必要な場合は交換してください。

- ▶ フェルトフィルター (5) をフィルターハウジングに、溝方向への矢印を目印に正しく取り付けます。
- ▶ チョークレバー (1) を に動かします。
- ▶ 四角形のスクリューのみを使用して、フィルターカバーを所定に取り付けます。スクリューを締め付けます。

17 キャブレターの調整



キャブレターは、大半の運転条件下で混合気が最適化されるよう工場出荷時に設定されています。

17.1 アイドリング回転数の調整

アイドリング回転中にエンジンが停止する

- ▶ エンジンを約 3 分間、暖機します。
- ▶ エンジンの回転がスムーズになるまでアイドリングスピード調整スクリュー (LA) を時計回りにゆつくりと回転させます - カuttingアタッチメントは停止していなければなりません。

アイドリング回転中にCuttingアタッチメントが回転する場合

- ▶ アイドリングスピード調整スクリュー (LA) をアタッチメントが停止するまで反時計回りに回転させた後、同一方向にさらに 1/2 - 3/4 回転させます。

警告

アイドリング中にCuttingアタッチメントが回転し続ける場合は、STIHL サービス店に点検と修理を依頼してください。

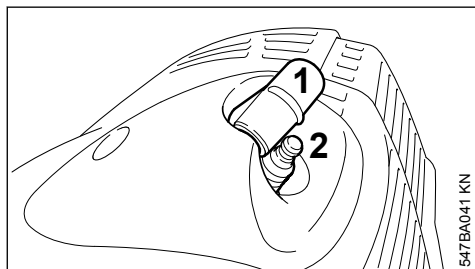
18 スパークプラグ

- ▶ エンジンの出力が低下したり、始動しにくくなったりアイドリングが不安定になったら、先ずスパークプラグを点検してください。

- ▶ 約 100 時間運転後には新品のスパークプラグと交換してください - 電極が極度に焼損している場合はそれよりも早く交換してください。スチール社が承認した、雑音防止スパークプラグのみをご使用ください - 「技術仕様」の項を参照してください。

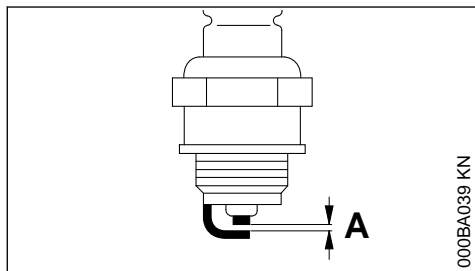
18.1 スパークプラグの取り外し

- ▶ エンジンを停止します。



- ▶ スパークプラグターミナル(1)を外します。
- ▶ スパークプラグ(2)を緩めます。

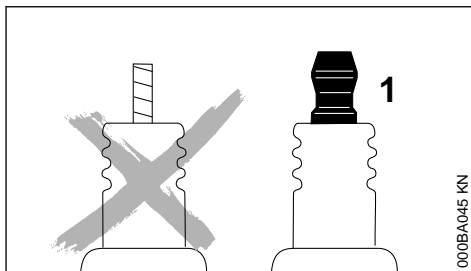
18.2 スパークプラグの点検



- ▶ 汚れたスパークプラグをきれいにします。
- ▶ 電極ギャップ(A)を点検して、必要場合は調整します - 数値は「技術仕様」の項を参照してください。
- ▶ 以下のような、スパークプラグが汚れる原因を排除してください。

原因：

- エンジンオイル混合量の過多
- エアークフィルターの汚れ
- 劣悪な使用環境



警告

アダプターナット(1)が緩んでいるか、外れている場合はアークが発生することがあります。発火または爆発が起きやすい環境下で作業を行うと、実際の火災または爆発が発生する恐れがあります。この場合、作業員が重傷を負ったり、建物に損傷を与えたりする可能性があります。

- ▶ 抵抗入タイプのスパークプラグを使用し、アダプターナットをしっかりと締め付けてください。

18.3 スパークプラグの取り付け

- ▶ スパークプラグをシリンダーにねじ込みます。
- ▶ ターミナルをしっかりとスパークプラグに押し込みます。

19 エンジンの動作

エアークフィルターの掃除してキャブレターを適切に調整しても、エンジンの動作が不十分な場合は、マフラーが原因の可能性がありま。

マフラーが汚れていないか(カーボンで詰まる)、スチール サービス店で点検してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。

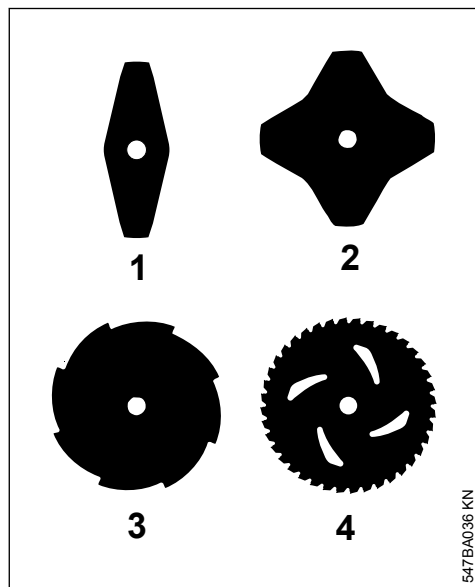
20 機械の保管

約 30 日以上使用しない場合

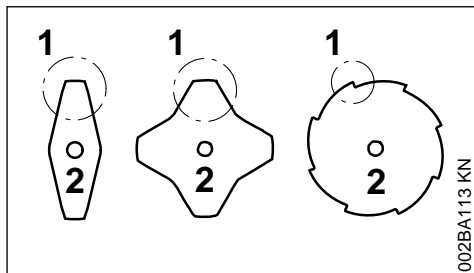
- ▶ 換気の良い場所で燃料タンクを空にし、洗浄します。
- ▶ 燃料は、地域の環境規制に従って処分してください。
- ▶ 手動燃料ポンプが装着されている場合は、手動燃料ポンプを 5 回以上押します。
- ▶ エンジンを始動し、停止するまでアイドリングさせます。
- ▶ カutting アタッチメントを取り外し、きれいにして点検してください。金属製カutting アタッチメントを腐食防止剤でコーティングしてください。

- ▶ 機械を丁寧に掃除します - 特にシリンダー フィンとエアー フィルターに注意します。
- ▶ 機械を乾燥した、安全な場所に保管してください - 子供などによる許可外の使用を避けてください。

21 金属製カッティング ブレードの目立て



- ▶ 目立てやすり (「特殊アクセサリ」を参照) を使用して、切れ味が悪くなったカッティング アタッチメント (1)、(2) および (3) を目立てします。磨耗が激しい場合は：グラインダーを使って目立てをするが、サービス店に依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ カッティング アタッチメント (4) 硬化処理された刃先が使用されているため、手で目立てすることはできません。磨耗が深刻な場合は、グラインダーを使って目立てをするが、サービス店に依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。
- ▶ 目立てを頻繁に行い、ほんのわずかな刃先を磨き磨き。通常の目立てではやすりを 2~3 回当てることです。



- ▶ 刃 (1) を均一に目立てします - 元刃 (2) の形状を変えないでください。

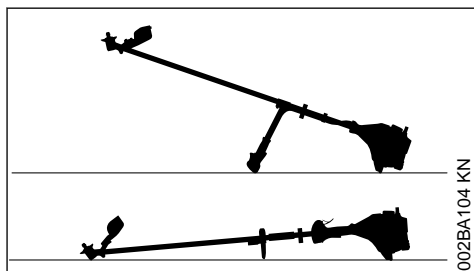
補足的な目立ての注意事項は、カッティングアタッチメントの包装を参照してください。将来のために、包装は保管しておいてください。

21.1 バランスをとる

- ▶ 約 5 回やすりがけした後は、スチール バランサー (「特殊アクセサリ」を参照) でカッティング アタッチメントのバランスが崩れていないか確認するか、または専門店に確認を依頼してください - 当社は、スチール サービス店に依頼されることを、お勧めします。

22 カッティング ヘッドの保守

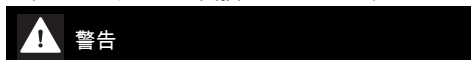
22.1 パワーツールを地面に置く



- ▶ エンジンを停止します。
- ▶ カッティング アタッチメント装着部が上向きになるように、パワーツールを置きます。

22.2 ナイロンラインの交換

必ず草刈ヘッドが摩耗していないか点検してからナイロンラインを交換してください。



摩耗がひどい場合、草刈ヘッド一式を交換してください。

以降では、ナイロンカッティングラインを「ナイロンライン」または「ライン」と呼びます。

草刈ヘッドには、ナイロンラインの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されています。草刈ヘッドの取扱説明書は安全な場所に保管してください。

▶ 必要に応じて、草刈ヘッドを取り外します。

22.3 ナイロンラインの送り出し調整

STIHL スーパーカット

ラインが最低 6 cm (2 1/2 インチ) 残っている場合は、新しいラインが、自動的に送り出されます。長すぎるラインは、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

STIHL オートカット

- ▶ エンジンを作動させ、草刈ヘッドを回転させたまま草地の上方で保持します。
- ▶ 地面上で軽く叩きます - 新しいラインが送り出され、デフレクターのブレードで適切な長さに切り揃えられます。

草刈ヘッドで地面を軽く叩くたびに新しいラインが送り出されます。そのため、作業中は草刈ヘッドの切断性能を観察してください。草刈ヘッドで地面を頻繁に叩き過ぎると、ナイロンラインの未使用部分がライン制限ブレードによって不必要に切り落とされます。

両方のラインが最低 2.5 cm (1 in) 残っていれば、ラインは送り出されます。

STIHL トリムカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止してから手でナイロンラインを調整してください。

- ▶ スプールを引き上げ - かみ合うまで反時計回りに約 1/6 回転させ - 跳ね戻します。
- ▶ ラインの端を外側に引き出します。

両方のラインがデフレクターのライン制限ブレードに達するまで、上記の手順を必要に応じて繰り返します。

スプールが停止位置から次の停止位置まで回転すると、新しいラインが約 4 cm (1 1/2 in) 繰り出されます。

22.4 ナイロンラインの交換

STIHL ポリカット

カutting ブレードの代わりに、事前に所定の長さに切断したナイロンラインをポリカットに取り付けることができます。

STIHL デュロカット、STIHL ポリカット



警告

ケガをする危険を減らすために、必ずエンジンを停止させてから草刈ヘッドの詰め替えを行ってください。

- ▶ 同梱されている取扱説明書の説明に従い、事前に切断したナイロンラインを草刈ヘッドに取り付けます。

22.5 カutting ブレードの交換

22.5.1 STIHL ポリカット

新しいカutting ブレードを取り付ける前に、必ずカutting ヘッドが磨耗していないか点検してください。



警告

磨耗がひどい場合、カutting ヘッド一式を交換してください。

以降の部分では、プラスチック カutting ブレードを「ブレード」と呼びます。

カutting ヘッドは、ブレードの交換に関するイラスト付きの説明書が同梱されて納入されます。カutting ヘッドに関する取扱説明書を、安全な場所に保管してください。



警告

ケガの危険を低減するため、ブレードを取り付ける前に必ずエンジンを停止してください。

- ▶ カutting ヘッドを取り外します。
- ▶ イラスト付き説明書に図示されているようにブレードを交換します。
- ▶ カutting ヘッドを再び取り付けます。

23 整備表

以下の整備間隔は、標準的な作業条件用です。毎日の作業時間が長いか、作業条件が過酷な場合（粉塵が極端に多い場所等）は、指定された間隔をそれに応じて狭めてください。		推奨 作業条件	日 毎 の 作 業 時 間 が 長 い 場 合	過 酷 な 作 業 条 件	間 隔	毎 月	12 ヵ 月 毎	時 間 毎 時	時 間 毎 時	時 間 毎 時
機械本体	目視検査（状態、漏れ）	X		X						
	清掃		X							
	損傷部品の交換	X							X	
コントロールハンドル	作動点検	X		X						
エアフィルター	目視検査					X		X		
	清掃							X		X
	交換								X	
手動燃料ポンプ（装着されている場合）	点検	X								
	修理はサービス店に依頼してください ¹⁾								X	
燃料タンク内のピックアップボディ	点検							X		
	交換						X		X	X
燃料タンク	清掃							X		X
キャブレター	アイドルリング調整の点検 - カuttingアタッチメントが回転しないこと	X		X						
	アイドルリング回転数の調整									X
スパークプラグ	電極ギャップの再調整							X		
	100 運転時間毎に交換									
冷却風吸入部	目視検査		X							
	清掃									X
すべての手の届くスクリユーとナット（調整スクリユーを除く）	締め直し									X
Cuttingアタッチメント	目視検査	X		X						
	交換								X	
	締め付け状態の点検	X		X						
金属製Cuttingアタッチメント	目立て	X								X
安全ラベル	交換								X	

¹⁾STIHL 社では、STIHL サービス店の利用をお勧めしています。

24 磨耗の低減と損傷の回避

本取扱説明書の記述を遵守して使用すると、機械の過度の磨耗や損傷が回避されます。

本機の使用、整備並びに保管は、本取扱説明書の記述に従って入念に行ってください。

特に以下の場合のように、安全に関する注意事項、取扱説明書の記述内容及び警告事項に従わずに使用したことに起因する全ての損傷については、ユーザーが責任を負います：

－ スチールが許可していない製品の改造。

- 当製品への適用が承認されていない、適していない、または低品質のツールやアクセサリーの使用。
- 指定外の目的に当製品を使用。
- スポーツ或いは競技等の催し物に当製品を使用。
- 損傷部品を装備したままで当製品を使用したことから生じる派生的損傷。

24.1 整備作業

「整備表」に列記されている作業は、必ず全て定期的に行ってください。整備作業を使用者が自ら行えない場合は、サービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

上記整備作業を怠ったことが原因で生じた以下のような損傷に対しては、上記の例として、以下の部品が挙げられます：

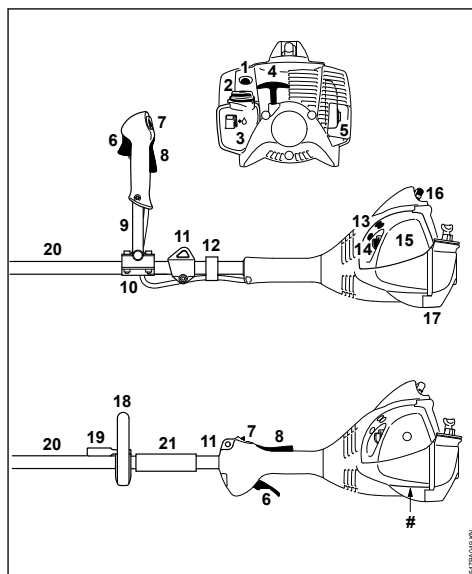
- 指定された時期に実施されなかった整備や不十分な整備(例：エア フィルター、燃料フィルター)、不適切なキャブレターの調整または不十分な冷却空気経路の掃除(エア吸入スリット、シリンダー フィン)が原因で生じたエンジンの損傷。
- 不適切な保管に起因する腐食およびその他の派生的損傷。
- 低品質の交換部品を使用したことによる本機の損傷。

24.2 磨耗部品

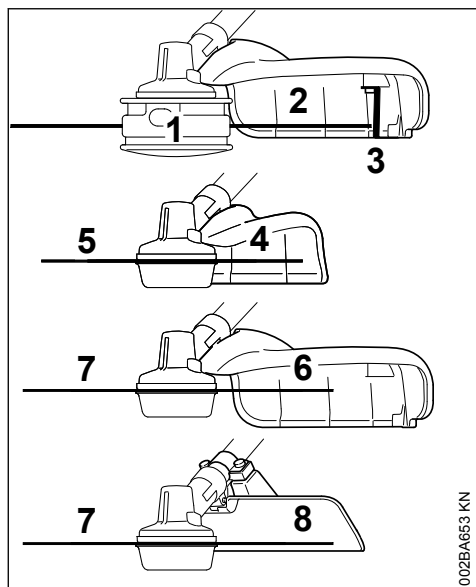
パワーツールの部品によっては、規定どおりに使用しても通常の磨耗は避けられません。これらの部品は、使用の種類や期間に合わせて適時に交換してください。上記の例として、以下の部品が挙げられます：

- カutting アタッチメント (全種)
- カutting アタッチメント固定用パーツ (ライダープレート、ナット等)
- カutting アタッチメント用デフレクター
- クラッチ
- フィルター (エア フィルター、燃料フィルター)
- リワインド スターター
- スパーク プラグ

25 主要構成部品



- 1 手動燃料ポンプ
- 2 タンクキャップ
- 3 燃料タンク
- 4 スターターグリップ
- 5 マフラー
- 6 スロットルトリガー
- 7 停止スイッチ
- 8 スロットルトリガーロックアウト
- 9 バイクハンドル (ハンドルバー)
- 10 ハンドルサポート
- 11 吊り下げ用リング
- 12 スロットルケーブルリテーナー
- 13 キャブレター調整スクリュー
- 14 チョークレバー
- 15 エアフィルターカバー
- 16 スパークプラグターミナル
- 17 マシンサポート
- 18 ループハンドル
- 19 バリアバー (国別仕様)
- 20 ドライブチェーン
- 21 スリーブ
- # 機械番号



002BA653 KN

- 1 カutting ヘッド
- 2 カuttingヘッド専用デフレクター
- 3 ブレード
- 4 草刈りブレード (最大直径 230 mm) 専用デフレクター
- 5 230 mm 草刈りブレード
- 6 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター
- 7 255 mm 草刈りブレード
- 8 草刈りブレード (最大直径 255 mm) 専用デフレクター

26 技術仕様

26.1 エンジン

単気筒 2 ストロークエンジン

排気量:	27.2cm ³
シリンダー径:	34 mm
ピストンストローク:	30 mm
ISO 8893 に準拠したエンジン出力:	0.8 kW (1.1 HP)
アイドリング回転数:	8500 1/min
回転数制御範囲 (公称値):	2800 rpm
シャフト最高回転数 (カッティングアタッチメント):	10000 rpm
	8600 rpm

26.2 イグニッションシステム

エレクトロニクマグネイトイグニッション

スパークプラグ (雑音防止): NGK CMR 6 H,
BOSCH USR 4AC

電極ギャップ: 0.5 mm

26.3 燃料システム

燃料ポンプ付き全方向ダイヤフラム式キャブレッター

燃料タンク容量: 340 cm³ (0.34 l)

26.4 重量

燃料なしの状態、カッティングアタッチメントとデフレクターを除く

FS 56:	5.1 kg
FS 56 R:	4.7 kg
FS 56 C エルゴスタート付き:	5.1 kg
FS 56 RC エルゴスタート付き:	4.8 kg

26.5 音圧・音響・振動レベル

音圧、音響、振動レベルの数値は、アイドリング回転数と公称最大回転数を均一に考慮して計算されています。

振動に関する指令 2002/44/EC の順守の詳細については、以下をご覧ください -

www.stihl.com/vib

26.5.1 ISO 22868 に準拠した音圧レベル L_{peq}

FS 56、FS 56 C

草刈ヘッド付き:	93 dB(A)
金属製ツール付き:	94 dB(A)

FS 56 R、FS 56 RC

草刈ヘッド付き:	93 dB(A)
金属製ツール付き:	94 dB(A)

26.5.2 EN 22868 に準拠した音響出力レベル L_w

FS□56、FS□56□C、FS□56□R、FS□56□RC

草刈ヘッド付き:	107 dB(A)
金属製ツール付き:	107 dB(A)

26.5.3 ISO 22867 に準拠した振動レベル $a_{hw,eq}$

FS 56、FS 56 C

	左ハンドル	右ハンドル
草刈ヘッド付き:	4.7 m/s ²	3.8 m/s ²
金属製ツール付き:	5.0 m/s ²	4.5 m/s ²

FS 56 R

	左ハンドル	右ハンドル
草刈ヘッド付き:	6.5 m/s ²	7.5 m/s ²
金属製ツール付き:	6.6 m/s ²	6.6 m/s ²

FS 56 RC

	左ハンドル	右ハンドル
草刈ヘッド付き：	6.5 m/s ²	7.5 m/s ²
金属製ツール付き：	6.6 m/s ²	6.6 m/s ²

26.6 排気ガス

EU 型式認定手順で測定された CO₂ 値は、以下に記載されています -

www.stihl.com/co2

(製品ごとの技術データ)。

CO₂ 測定値は、代表的なエンジンを実験室の環境下で標準的な試験手順に従って測定した結果であり、特定のエンジンの性能を明示的、暗示的に保証する数値ではありません。

適用される排気ガス規制の要件は、本書に記載されている方法で機械を使用し、整備することによって満たされます。いかなる方法であれエンジンを改造すると、使用許可は無効になります。


27 整備と修理

本機を使用する方が実施できる保守および整備作業は、本取扱説明書に記述されていることだけです。それ以外の修理はすべてサービス店に依頼してください。

当社では整備や修理を、認定を受けたスチール サービス店のみに依頼されることをお勧めします。スチール サービス店には定期的にトレーニングを受ける機会が与えられ、必要な技術情報の提供を受けています。

修理時には、当社が本機への使用を承認した、または技術的に同等な交換部品だけをご使用ください。高品質の交換部品のみを使用して、事故および本機の損傷を回避してください。

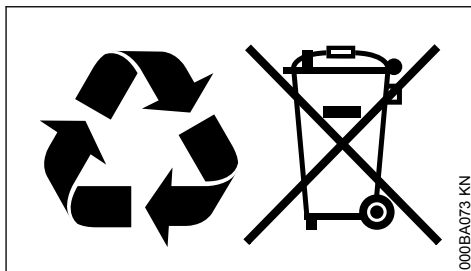
当社ではスチール オリジナルの交換部品のご使用をお勧めします。

スチール純正部品には、スチール部品番号、**STIHL** ロゴマークおよびスチール部品シンボル マーク  が刻印されています。(小さな部品では、シンボルマークだけが刻印されているものもあります。)

28 廃棄

廃棄に関する情報については、最寄りの行政機関または STIHL サービス店へお問い合わせください。

不適切な廃棄は、健康被害や環境汚染の原因になるおそれがあります。



- ▶ 現地の規制に従い、パッケージを含む STIHL 製品を適切な回収場所へ持ち込み、リサイクルしてください。
- ▶ 家庭ごみと共に廃棄しないでください。

www.stihl.com



0458-547-4321-E



0458-547-4321-E